



月刊

もぐら通信

2013年6月1日 第127号

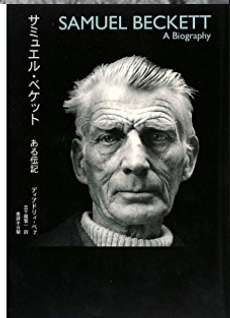
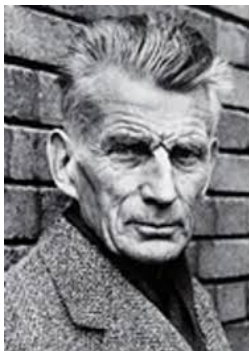
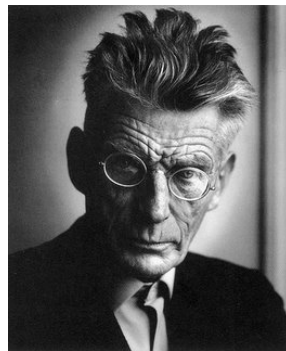
<http://abekobosplace.blogspot.jp>

あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

もぐら通信を自由にあなたの「友達」に配付して下さい

「フランスでベケットの「ゴドーを待ちながら」を観たが、全く感心した。長い道程を歩いて疲れたという表現をするのに、いきなり靴を脱いで匂いを嗅いだものだ。要するに、ヌベル・バーグとは、カクシカメラの精神と言えるだろう。舞台に於ける様式化は、リアルなものとの対決ではなくて延長であると心得るべきだ。」

(『三問三答一人間座「人間そっくり」』全集第29巻538ページ～539ページ)



安部公房の広場 | | www.abekobosplace.blogspot.jp | | 問合せ：takranke2003@yahoo.co.jp



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する
非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 3
- 2 記録&ニュース&掲示板page 4
- 3 巻頭詩（15）：白壁：木山捷平……page 15
- 4 周辺飛行（38）：3。『周辺飛行』について（21）：阿波環状線の夢：
周辺飛行36：岩田英哉…page 16
- 5 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（9）：7 SF文学史を伝
統的な日本文学史に上位接続（conjunction）する：岩田英哉……page 26
- 6 私の本棚（33）：『木山捷平全詩集』を読む：岩田英哉……page 51
- 7 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記
の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次
号：岩田英哉…page 54
- 8 サンチョ・パンサを求めて（11）：横たわる人と立っている人：岩田英
哉…page 55
- 9 ネット・メディア論（14）：7.3 公私の最大単位：まて次号：岩田英
哉…page 57
- 10 *Mole Hole Letter*（53）：さらば、Google!～断捨離GAFAシリーズ
（2）：岩田英哉…page 58
- 11 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（12）：5.16.3 「聞こ
し召す」前に「しろし召す」がある/（3）第三段：大倭日高見国は大祓の結果
どうなったか（2）：待て次号：岩田英哉…page 71
- 12 Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境シリーズ（12）：扇：待
て次号：岩田英哉…page 72
- 13 編集後記…page 73

・編集方針

The Best Tweets of the Month



暗pon 澹Fish cake with swirl design@ata_pon Jan 28
安房は安部公房の略ではない

Peripheral Flight@mnukt Jan 29
安部公房の境界的性格をもつ異物への変身は、疎外論というよりアガンベンの近年の〈生の形式〉を補助線にした方がクリアに整理できそう

麦茶@hoshi_sanzui Jan 29
安部公房のジャンルって何ですか

まめっころ(ピザ届け終わった)@mamekkorori

Feb 1
安部公房さんの短編をひとつ読了。まさか安部公房さんの作品でエヴァンゲリオンを読めるとは！

rina Wilted flower@Ns_ss_81 Jan 29
遂に安部公房かあ.....もうそろそろ寺山修司の詩集ですかね()

さなか@fish_sasasa Jan 26
安部公房やカフカを読んでいる時の感覚について なんとか視野に入るくらいの外側からじわじわとコンクリートで固められていき、気付いた時には真ん中でひとり棒立ちになって動けなくなっている

り@donut1221 Jan 30
安部公房といえば『赤い繭』懐かしいな。全っ然分かんなかったけど、あれ。

oky@boss_b_oky Jan 31
カフカ Double exclamation mark ならば安部公房...と思ったら Loudly crying face そうだよ
ね.....安部公房ほしすぎ.....

The worst tweet of the month

酢卵@tengo_mama Jan 28
うちの年長さんが安部公房読んでたので面白い？て聞いたら「おもしろくはない」
だよねえ(苦笑)
「これ、ほんとのおはなし？どんなはなしかわからない！ Anger symbol」
うん、つまり夢の中みたいな話なの、想像の
「ふーん、ふつうだね」

せつこ@kakeiyaboku_ Jan 28
不破のリトルナイトメア見るか安部公房見るか2秒迷って不破の配信見ることにした

もぐら通信

俺@gusta_manzana Jan 29

安部公房懐かしい、なんか一冊だけ読んだ覚えある、なんだったかすら覚えてない

べがろか@begaroka Jan 28

安部公房で知名度ないよな

一応教科書にも載ってるし、長生きしたらノーベル賞あったぐらいの作家やねんけど。

面白いけど、難解なんよ。

今月の福島正実

山岸真(P.N.)@ymgsm ·14h

→「シェクリイの本は今、絶版ばかりで、あまり読まれなくなっていますが、これはとてももったいないことだと思います。あらためて読まれるようになることを願っています」。安部公房がらみで福島正実『未踏の時代』の引用も。



今月の国文学

はるな@xharunarunax Jan 30

わたしはまあ文学に造詣がないのでアレなんですけど、国文学科出身のお母さんも「卒論安部公房にしたかった〜Two hearts」とゆうて、国文学好きなのに割とドライな作風好きなんやなと思ったことがある。(安部公房は当時ご存命だったため、教授にダメと言われたらしい)

今月の詩人の生涯

めめ@MmayNKY Jan 31

Kihachiro Kawamoto 作品を昨日からいくつか観てました。「A Poet's Life」の原作は安部公房なんだね。随所に滲むらしさが懐かしい。

今月のキンドル版安部公房

ホッタタカシ@t_hotta ·16h

安部公房の作品はまったく電子書籍化されていないことで有名ですが、外国語版はけっこうkindleに出てるんですよ。https://amazon.co.jp/Kindle%EF%82%B9%E3%83%88%E3%82%A2-Abe-Kobo/?rh=n%3A2250738051%2Cp_27%3AAbe+Kobo

もぐら通信

さちどり / (うちだ@RMU) @sachidori Jan 29

同期の加藤くんが読書好きなんだけどこれまた俺も興味を持つ本をたくさん読んでいる
勧められた安部公房の本を読みたいがKindle化されていないから紙で買わねば
Kindleで主に買うようにしても紙の本って増えちゃうんだよなあThinking faceSplashing sweat
symbol

Hhh@eleintheforest Jan 26

安部公房の新潮文庫ってKindle化されていないのか。意外。

懐かしの「新潮電子ライブラリー」！『砂の女』もここから出てました。

The following media includes potentially sensitive content. Change settings

mb@marmotbaby · 14h

コレですね。買いそびれました(苦)。あろうことか『闖入者』では「阿部公房」となっ
ていて抗議したくなりました。

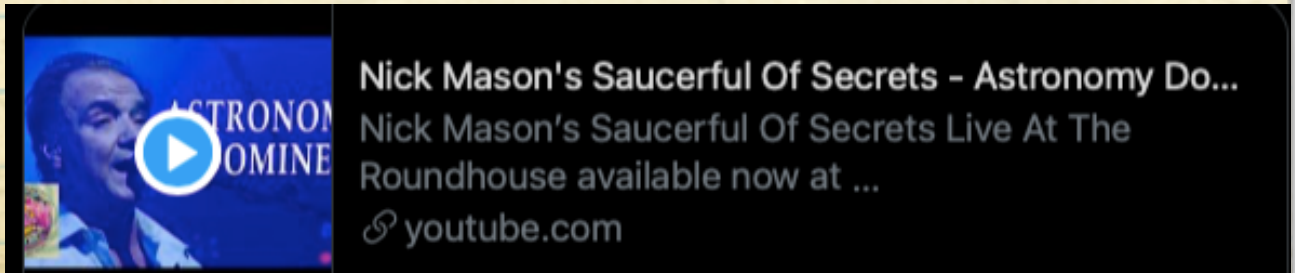
The following media includes potentially sensitive content. Change settings

今月のピンク・フロイド

今日はピンク・フロイド不動のドラマー、ニック・メイスン77歳の誕生日。ということで
今、彼がやってるバンド「ニック・メイスンズ・ソーサーフル・オブ・シークレッツ」から
一曲ご紹介。

Nick Mason's Saucerful Of Secrets - Astronomy Domine (Live At The Roundhouse) :

https://www.youtube.com/watch?v=Wdn1OzCK5Yw&feature=emb_logo



ホッタタカシ@t_hotta Jan 26

「狂気」発売の前年でまさに絶頂期。ロジャー・ウォーターズの絶叫と共にステージ後方に
花火が上がる演出が仕掛けられている。

【ピンク・フロイド 72年6月29日ブライトン公演から「ユージン、斧に気をつけろ」のラ
イヴ映像公開】 <http://amass.jp/143683/> @amass_jp



もぐら通信

今月の狂読者

jintaro@akutabejintarou Jan 31

10代の半ばから十年くらい夢日記を書き続けて、全部で2千編、100万字分くらいのテキストがあるからいつか漠然と漫画化していこうとは思ったり 安部公房みたいに枕元にノートとテープレコーダーを用意していた

パトス氏@manbou_korian Feb 1

中上健次全集は持ってるけれど、フォークナーは持ってない。安部公房全集は持ってるけれど、カフカは持ってない（文庫数冊を除き）。これじゃあダメなんだろうね。

倉本くん@ribokura_twst Jan 29

結構近代だけど安部公房の箱男と砂の女とカンガルー・ノートめちゃくちゃ面白かった...
というか安部公房は全部よんだし、現代文の教科書にも赤い繭が載ってたのに全然知ってる人おらんくて寂しかった

亡羊堂@lostsheep4books Jan 31

今日は庭木の雪も落とさないとDisappointed face

こんな日々を安部公房『砂の女』の作品で何度か例えていたが、安部公房は高校から読み始めてその殆ど読み単行本(初版)で持っている。読み終わった本なので、その前にはドイケンズ、夢野久作の文庫本が置かれてる。



ひよこ@ayuchi_piyo Jan 26

ワイが鳥取砂丘に行ったのは、あゆちが安部公房のこと好きだからよ。彼の代表作である『砂の女』をちゃんと理解するために砂丘まで足を運んだってわけ。鳥取へ赴いたのはオタ活の一環ですはい。

今月のジャルジャル

つるまる@tsurumaru57 Jan 27

赤い繭の安部公房みを感じた



今月の暗闇

のぜ@nozeldanoflife Jan 30

好き...暗闇で読む安部公房好き

今月の燃えつきた地図

Ossily Mondinsky@Shipricefield Jan 30

燃えつきた地図クッソおもしろかった 安部公房はやっぱちょっとすぎる



音隅 管譜@otonezumi Jan 31

思い出せない女.....手品みたいに、カーテンのひと振り、顔を消してしまった女.....それほど没個性的な顔 『燃えつきた地図』安部公房

もぐら通信

ホッタタカシ@t_hotta Jan 31

#三点リーダー症候群 な文章の一例。

>安部公房『燃えつきた地図』（1967）

思い出せない女.....手品みたいに、カーテンのひと振り、顔を消してしまった女.....それほど没個性的な顔 『燃えつきた地図』安部公房

0303Custard@doremifasora Jan 31

3点リーダー多用がダセっていうやつはおれのきみふさ（敬愛する安部公房先生）の小説を読んでから出直してこいよな。

ムラセアツヤ。@magcup9379 Jul 24, 2017

安部公房の小説に出てくる3点リーダーの数を数えてたらこんな時間だ.....チラッと読んだけど相変わらず難解だった。文学を楽しむのには脳味噌がいるなあ、ONE PIECE読みたい。

鳥原継接@【中止】文フリ京都き-12@t_tsugihagi Jan 31

3点リーダーといえば、私は安部公房の文章好きな方なんで、あの、抑揚のない.....くたびれた台詞が.....言いにくそうな語りが、好きなのだ.....。

今月の棒

会社員辞めて教員になる。@komugiscigi Jan 26

安部公房の棒も最近読んだけど、

高校生のときは意味不明だったのに大人になった今は響いた

私は棒になるの怖いな

今月の他人の顔

_@RICECAKEOh_Zee Jan 27

彼氏に安部公房の「他人の顔」を勧められて、読んだのですが、愛を試されているのかもしれん

今月の箱男

虹蛇@読書@rainbowsnake_me Feb 1

はじめまして。

フォローありがとうございます。確かに相当好み合いそうですね.....。クツエーもクンデラも(大げさではなく)私の人生を変えてくれた作家です。また特に、安部公房の『箱男』は私にとって本を読むきっかけをくれた本でもあり、初読で受けた感激は今でも鮮明に記憶しています。

きやるめん@yururi40 Jan 31

安部公房「箱男」#読了

もぐら通信

ミステリでもホラーでもない、不思議な読後感で面白かった！登場人物はみんなどこかおかしいのに、とても共感できる。すごい話を読んでしまった。

[Kaco] @kaccokaco Jan 27

[安部公房]

「あべこうぼう」音の響きが好きだ。声に出して言いたくなるフルネーム。響き買いをした「箱男」に10年前手をつけたが、4分の3あたりで何度も脱落する。どうしても何か全部読みたくて別の本を購入。「砂の女」は最後まで読めた。人間臭かった。私は満たされた。

Kousaku Ishiguro@pan1600 Jan 29
days / book

今日の読書Books

安部公房「箱男」1973年。中学生の頃に読んだ本を久しぶりに読む。ダンボールの箱を頭から被り都市を彷徨う主人公である箱男。その「箱男」の記録である。



海野泰史@Yasu_umi Feb 1

女性を箱に詰める癖、でパッと思いつくのは京極夏彦の魍魎の匣(そういう癖ではないがそういうシーンはある)でこれは95年らしい。元ネタ的になってる安部公房の箱男は当然もつと前なんだけど、こっちは箱に入ってる男の話なので違いそ

今月の勅使河原宏

阿乱隅氏@yoiinago417 Jan 28

今日は勅使河原宏氏誕生日。草月流3代目家元にして芸術派映画監督。「砂の女」「他人の顔」「燃えつきた地図」等の安部公房作品は前衛的な作風ながら商業的にも成功しました。社会派「サマー・ソルジャー」の17年後大スター共演の絢爛たる「利休」で劇映画に復帰。デビュー作「おとし穴」も秀作です。



今月の漱石

霧原@honoguraino_lv Jan 27

安部公房結構好きなのだけどあまり好きって言う人に出逢わない あとは大体口を開けば夢十夜の話しかしない

今月の頭木弘樹

山岸真(P.N.)@ymgsm·14h

『ひきこもり図書館 部屋から出られない人のための12の物語』頭木弘樹編(毎日新聞出版)。作品数・ページ数の約半分がSF。ロバート・シェクリイ「静かな水のほとりで」品川亮訳

もぐら通信

(新訳)

収録。編者あとがきで、シェクリイを高く評価した安部公房の言葉を複数引用したあと、→

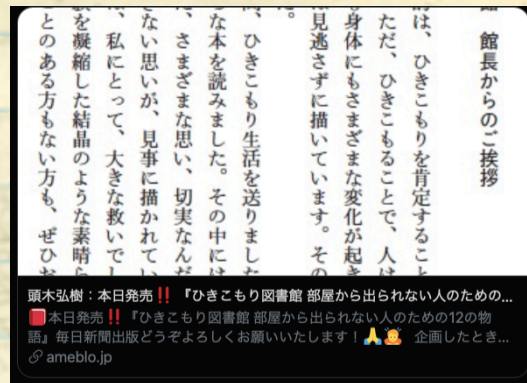
今月の桂川寛

うゆ@uyuuuuns 2h

東京国立近代美術館 コレクション展 オマケ。

桂川寛による安部公房『壁』の挿絵。

私は未読なので、読んでみたくなりました！



今月のけものたちは故郷をめざす

かまわぬRed apple@kamawanujp Jan 31

Replying to @kamawanujp

黛ジュン「恋のハレルヤ」は、なかにし礼本人が少年時代、満州からの避難民としてたどり着いた葫芦島の小高い丘からの景色（引き揚げ船、青い空と海）を見た時の感動をバビロン捕囚の捕囚民の気持ちになぞらえた。と語ってて片や「けものたちは故郷をめざす」な安部公房も居るわけで

かまわぬRed apple@kamawanujp Jan 31

いや、満洲引き上げを描いた安部公房「けものたちは故郷をめざす」も痛烈だったが、帰国の船の中、なかにし礼のお姉さんが精神に変調をきたし、海に身を投げようとするエピソードもあったな。痛烈。

今月の友達

安部公房「友達」 bot@kobo_tomodachi Feb 2

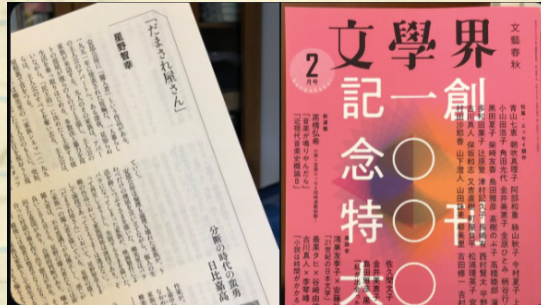
都会には、何百万、何千万もの人間がいる。しかし、その誰もが、それこそ赤の他人...どこを見ても、他人だらけ...恐ろしいことじゃありませんか...どうしたって、友達がいる。助け合え、はげまし合える、友達がいる...

～父～

日比嘉高『プライベートの誕生』 @yshibi Jan 29

『文學界』2月号に、星野智幸さんの『だまされ屋さん』の書評を書いています。

安部公房の「闖入者」、柳美里さんの「家族シネマ」という〈闖入家族もの〉の先行作と比べつつ、星野さんの柵を「分断の時代の蛮勇」として評価しようとしたものです。時代を映す一作です。ぜひ！



今月のデンドロカカリヤ

トマトスープ@Tsoup2 Jan 28

最近の作品にカウントされないかもですが、安部公房の「デンドロカカリヤ」に自殺者の森が登場していました。「バベルの塔の狸」にもダンテが登場します。

Quote Tweet

壺屋めり@cari_meli Jan 28

【ゆるぼ】海外の研究者から連絡が来て「現代におけるダンテ受容について今度話すんだけど、日本の最近の作品でダンテや『神曲』にインスパイアされたものって何かある？」と質問されたけど、わたしは全然知らないの、知ってる人がいたら教えてください。文学でも映画でも漫画でもOKだそうです。

今月の赤い繭

SATOMIN.H (ひらさあ さとみ) Dog face@saa_aaa_aaa Jan 28

うが ---だめだ、本買ったばかりなのに欲しい本が溢れておる.....安部公房.....好きだ.....ガ ッウウウ

多摩セン@bk_kaed Jan 28

世の中ペットで溢れてるのに一匹も俺の家にはいないのおかしいだろって思ったけどこれ安部公房の赤い繭と同じマインドだ

ハイライト@hilite314 Feb 1

安部公房の赤い繭を読み返したんだけど、なんというか"帰る家のない"人は"帰る家のある"人に一方的に傷つけられて、自分を守ろう、一つになろう、とすると自我が消え、街の中に家があるようにATフィールド外にも世界がある。

という人類補完計画な気がしてきたな....。

今月の幽霊はここにいる

キクスイオブザデッド@candycofin Jan 31

安部公房「幽霊はここにいる」読了~Smiling face

戦後すぐくらいの話だけど、独特なオシャレな印象だった。今ではよく見るサスペンスなコメディだなあ。モデル嬢が良かった。

もぐら通信

「幽霊が見える」をみんな本気にしちゃうってのは、「ウサギが見える」映画『ハーヴェイ』みたいね。

今月の飢餓同盟

wakuwaku@wakwak_dokdok Jan 30

安部公房作品を全て読んでる訳ではないが、「飢餓同盟」だけは毎回冒頭数ページで何故か読む気を失くす

今月のカンガルー・ノート

社会学・哲学・文学等私的な名言bot@siteki_meigen Jan 27

遅れてやってきた人さらい 会えなかった人さらい わたしが愛した人さらい (オタスケ オタスケ オタスケヨ オネガイダカラ タスケテヨ) - 安部公房『カンガルー・ノート』

今月のハンマー・キラー君

月見里@KottsmYamanashi Feb 1

安部公房で一番面白い文
極念流空手道接骨院導師 ハンマーキラー

今月のR62号の発明

小説・歌詞bot@bot_9836 Feb 1

死ぬつもりになって歩いてみると、町はあんがいひっそり、ガラス細工のように見えた。
R62号の発明/安部公房

今月の絶望

カラシニコフ@kalashnikovread Feb 1

Replying to @kyoko_nikki

中上健次、好きな作家の一人です。重厚な作品が多いですね。テイストは違うかも知れませんが、安部公房、中村文則氏や西村賢太氏も、救いがない感じですね。自分も、このまま落ちぶれて、野垂れ死ぬのかな、と思う反面、どうせ独りで死ぬしなあ、とどんと構えているところもあります。

あんじー@ANJL_KASHIMA Jan 31

高校るとき樹海行き自殺願望のある同級生がいた。安部公房が好きだったせいだったんだ。

ステキ言葉bot@sutekibot2 Jan 30

「明日のない希望よりも、むしろ絶望の明日を」 安部公房

今月の餃子

B面@yonagi189 Jan 31

安部公房のWiki、写真が餃子を調理する安部公房なのでポイントが高い

もぐら通信

らゆしあ@Astro_phom Jan 27

調べ物をしていて、安部公房のWikipediaをみたらトップに「餃子の調理中」という写真があつてとても心が穏やかになった

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%89%E9%83%A8%E5%85%AC%E6%88%BF>

今月の砂の女

松本志郎@昭和大好きオジサン@shiro_showa60s Jan 28

今日は勅使河原宏監督の誕生日でもあるとのこと。私は「砂の女」しか見たことありませんが、あの映画には圧倒されました。安部公房のあの小説を映像化するのは相当難しかったと思いますが、忠実にというか完璧に原作の世界観が表現されていて、鑑賞時は唸られましたね。>RT



北島 健都@kentotanuki

Jan 31

『砂の女/安部公房』

最近の自分も「砂の女」になりかけていたような気がします。

希望を見出す努力、できるだけ楽しもうと言う努力、、、そうした心をすり減らした極地が垣間見える小説でした。

ほし@hoshi2sora8 Jan 28

安部公房の『砂の女』に「孤独とは、幻を求めて満たされない、渇きのことなのである。」という一節があった。これを読んで、私の中に絶えずある「何か」が「孤独」だという事に気づいた。

もうせん ライター@tera_wright777 Feb 1

「絵画の見かた reprise」√K Contemporary
良かった作品に勝手にあだ名をつけていく。

梅津庸一『ヌーディストビーチ』

あだ名：安部公房『砂の女』



今月の壁

芥川賞全受賞作筋書き@akutagawa_syou Feb 2

ある朝、突然自分の名前を喪失してしまった男。彼の眼には、現実が奇怪な不条理の塊とうつる。他人との接触に支障を来し、人形やラクダに奇妙な愛情を抱く。そして……。独特の寓意とユーモアで、孤独な人間の実存的体験を描き、その底に価値逆転の方向を探った野心作。芥川賞受賞作『壁』安部公房

もぐら通信

琴音@LtoSS5566 Jan 27

安部公房の『壁』という小説、
病院の待合室の壁の絵を肺に吸い込んだ罪で裁判にかけられるという展開だから面白い

今月の宮澤賢治と太宰治

Kazuo KUMATA@kkumata Jan 31

近代日本が生んだ最大の文学者を三人挙げるとすれば、宮沢賢治・太宰治・安部公房、最大の音楽家を三人挙げるとすれば、中島みゆき・椎名林檎・米津玄師、と知っている人は、私と趣味が一致します。

今月のファシズム

ひかる（工学趣味・科学趣味）換気中（危険な時間帯）@hiruandon89 Jan 27

「ファシズムとはすなわち選別の思想」 by 安部公房 死に急ぐ鯨たち p107

2:18 - 2014年3月7日

再掲。当時の安部公房はそうに言っていた。東西冷戦の末の頃。戦後昭和という時代。

午前11:31 · 2019年11月23日

Quote Tweet

ひかる（工学趣味・科学趣味）換気中（危険な時間帯）@hiruandon89 · Nov 23, 2019

「ファシズムとはすなわち選別の思想」 by 安部公房 死に急ぐ鯨たち p107

2:18 - 2014年3月7日

再掲。当時の安部公房はそうに言っていた。東西冷戦の末の頃。戦後昭和という時代。 [twitter.com/hiruandon89/st...](https://twitter.com/hiruandon89/status/441111111111111111)

今月のマルクス主義者

ルクス・エテルナ@fwkv9379 Feb 1

おれの家の前を舗装して虫たちを殺したモータリゼーションを憎んでいたところ、大学院に行ったらマルクス主義者を気取ってスポーツカーのっている人が結構いたので何もかもいやになったのが私の出発点であるといへよう

ルクス・エテルナ@fwkv9379 Feb 1

安部公房が安岡章太郎とたしかF1みにいったのを読んでも腹が立たなかったのに。

今月の煙草

wakuwaku@wakwak_dokdok Jan 29

安部公房曰く、煙草は時間を吸う行為

今月の方舟さくら丸

井蛙（せいあ）@paraguaspolicia Jan 30

「坂口安吾の『墮落論』みたいな面白い本ないですか？考察しがいがあると尚いいで

もぐら通信

す！」っていうツッコミどころ満載な質問が来たので「安部公房の『方舟さくら丸』」って返したら、夜中に半泣きで「無理です」って返信きて夜中まで踏ん張った律儀さに感動した。

今月の人間そっくり

YuiChi@yuichi11100527 Jan 26

安部公房『人間そっくり』面白いなあ。ジョジョ味がある。

今月のシャボン玉の皮

madeleine@storyforf Jan 27

それは人間の恥部に似ている。虚しく、壮麗で、ただ存在することによってあらゆる意味を圧倒してしまう。当然のことだ。「有用性」が「廃物」に負けることはありえても、「廃物」が「有用性」に屈服したりすることはまず不可能だろう。——安部公房「シャボン玉の皮」

今月の鞆

Ryota@kzm02_05 18h

高校で安部公房の『鞆』をやったときは不思議な話だなくらいの認識だったけど、今やっ

とこの不思議さや奇妙さが面白さであり、人を惹き付ける所以なんだなと思った。
物語は分り易けりゃ良いってもんじゃないのか.....



Rhonus tempor placet.

巻頭詩
(14)
白壁

木山捷平

白壁

子供の時分

ぬりかへたばかりのお寺の白壁に
大きな落書をして

和尚にひどく叱られたがー。

あれは愉快的な悪戯であつた。

あれは美しい意欲であつた。

この頃

俺等を取りまく大きな寂寥！
せきれう

神様！

この寂寥をどうしてくれる？

あのやうな白壁を

俺等の前にさしひろげてくれ！



Rhuncus tempor placerat.

周辺飛行

(38)

3. 『周辺飛行』について(21)

阿波環状線の夢

周辺飛行36

岩田英哉

「阿波環状線の夢」は、冒頭の一行を差し替へたままエッセイ集『笑う月』に収められてゐます。この一行の変更は、エッセイ集に仕立てた時の直前のエッセイが『ある芸術家の肖像』で、これがやはり眠りと夢に関するエッセイ（「周辺飛行8」で既読のもの）ですから、「もうかなり前のことだが、おかしな夢を見た」が「まるで夢らしくない夢である」となつてゐて、後者の題名は本文の中身をそのままズバリで言い当ててゐる題名になつてゐます。この周辺飛行では「まるで夢らしくない夢である」について安部公房は語つてゐて、この語り（本当は騙りといひたい語り口です）は、次の7つ部分から構成されてゐる。

1. 交通体系（鉄道の交通体系）

環状線である鉄道（『カンガルー・ノート』の「新交通体系の提唱」の章を思ひ出すこと）

2. 公然の秘密

公共の場で性行為の合法性を保障する規則。この目に見えず由来の不明な規則を「公然の秘密」と此処で呼ぶことにします。跨線橋の場所にある秘密です。公然の秘密。これは「周辺飛行39」の題名でもある。この公然の秘密の行為のある場所では必ず橋がかかつてゐる。接続線が引かれてゐる。たとへ、仔象が音も立てずに紙のやうにメラメラと燃えるものであつても。

3. 夢のテープ

目覚める前に見た夢を録音する「夢のテープ」

4. 主体の不存在

主体（一人称）の欠落（誰が夢をみてゐるのかが不明）

5. 夢と自己検閲

夢と自己検閲。これは今のネット・メディアの自己検閲の問題の本質にある問題。そして此処でトポロジーの論理「すべてのバナナは果物だが、すべての果物がバナナだとは限らない」が登場する（傍線筆者）。〔註1〕

『周辺飛行』『周辺飛行』論（36）：大脳の分業——周辺飛行33』（もぐら通信第256号）より同じ論理展開の箇所を引用します：

「しかし、言語に関して優位な半球が、具体的な音そのものに対しても鋭敏であるとは限るまい。」

この「~とは限るまい」といふ逆転の論理は安部公房の常用する論理であり、この作家が十代以来愛するトポロジーの論理によるものです。この全体と部分の価値の等価交換の図解を再掲します。（以下略）」

6. 夢の記述

夢の記述を言語に変換すること

7. 厳正な見・不見の区別と不見の捨象

見たものと見なかつたものを「厳正に選り分けて、見なかつたものを捨て去ることに、ためらいを見せないこと」（これを「教訓」と呼んでゐる）

8. 俳優術への応用

この7の「教訓」は、「自戒であると同時に、俳優術についてもそっくり適用できそうに思う。」（今稽古中の『緑色のストッキング』に適用する）

以下、上記それぞれの構成要素について御話をして、読者には全体を把握してもらひたい。と、ここまで上記の部分部分の要約を挙げてみれば、更に別の視点で此の8つの項目を次の三つに要約することができる。これが此のエッセイの全てを表してゐます。

1. 交通体系と公然の秘密
2. 夢と現実
3. 見ると見ざるの厳正な区分

この三つに含まれるかまたは関係する上記8つの項目を配分すると次のやうになります。安部公房の世界の目録ともいふべき項目名です。この内訳の出入りを見るだけで、上記三つの項目は、あへて鉄道用語を使へば、相互に乗り入れてゐることが判ります。

1. 交通体系と公然の秘密

交通体系（鉄道の交通体系）

公然の秘密

主体の不存在

2. 夢と現実

鉄道の交通体系

公然の秘密

主体の不存在

夢と自己検閲

夢の記述

3. 見ると見ざるとの厳正な区分

公然の秘密

夢のテープ

夢と自己検閲

夢の記述

厳正な見・不見の区別および不見の捨象

以下、上記三つの分類に従って、この周辺飛行の解説をします。

1. 交通体系と公然の秘密

夢は因果関係を離れてみますので、これは超越論の世界です。これが、安部公房が夢に執し、夢を寝起きに録音し、このやうな夢に関するエッセイをよく書く理由です。何故なら、物事の全体は因果関係だけでは説明がつかないからです。説明がつかなければ、物事の全体を理解できません。それが現実ならば、現実の全体を理解することができず、それが夢ならば夢の全体を理解することができません。

現実の全体は仮に因果の連鎖の関係で説明できるとして（時間の中では）、時間の外では現実の全体は説明が付きません。ここに、安部公房の空間的な位相幾何学の世界と夢の相関関係の生まれる余地があります。この余地のあるところまで論が進むと、安部公房は大抵「～とは限るまい」といつて（ここが議論の余地）、そこからトポロジーの世界の論理を自由自在に展開して、一見劣位のを優位に、一見（これが現実）二義的なものを一義的なものに、一見（これが現実）二次的なものを一次的なものへと、線路の切り替へスイッチを切り替へて、小を大に、大を小に、左を右に、右を左に、天を地に、地を天に、支線を本線にして、その上に列車を走らせるのです。安部公房は宮澤賢治が好きでしたから〔註1〕、そして列車は箱の連結した一体になったものとして時間の中を走りますから、安部公房は列車を思ふと宮澤賢治を思つてゐるに違ひないのです。最後の長編『カンガルー・ノート』は、安部公房の『銀河鉄道の夜』だと云ふのが私の見立てです。あなたのご感想や如何に。

〔註1〕

山口果林著『安部公房とわたし』に、安部公房が21世紀にも残る作家として、

1. 宮沢賢治と
2. 太宰治

この順番で、このふたりの作家の名前を挙げる箇所があります。

「いつのことだったか、「次の世紀に生き残る作家は誰だと思う？三人挙げてみて」と聞いたことがある。安部公房は少し考えて「宮沢賢治、太宰治……うーん」三人目の名前はなかった。自分だという思いがあったのだと思う。」（同著、179ページ）

『カンガルー・ノート』から既存の交通体系から「新交通体系」へと移動する、またはズレる、位相をズラす箇所を「新交通体系の提唱」から引用して、掲題の「交通体系と公然の秘密」を見てみませう。「5. 4 存在への立て札を立てる：第5章：新交通体系の提唱」（もぐら通信第82号）より引用します。この章が名前の通りに示してあるやうに、安部公房の世界でたとへそれが夢であれうつつであれ鉄道が出てきたら、たとへそれが直線軌道であれ、円環軌道（例：阿波環状線）であれ、その鉄道のAからBへのシステム（体系）への切り換への分岐点には「存在への立札が立」つてみるのです。引用します：

「4. シャーマン安部公房の秘儀の式次第」に従ひ、秘儀の式次第の6つのプロセスに即して、これを各章に割り当てれば、次のやうになります。

- (1) 差異を設ける：第1章：かいわれ大根
- (2) 呪文を唱える：第2章：緑面の詩人
- (3) 存在を招来する：第3章：火炎河原；第4章：ドラキュラの娘
- (4) 存在への立て札を立てる：第5章：新交通体系の提唱
- (5) 存在を荘厳(しょうごん)する：第6章：風の長歌：鎮魂歌
- (6) 次の存在への立て札を立てる：第7章：人さらい：反歌

さて、最後の第7章人さらいでいよいよ明らかになつたことは、「『カンガルー・ノート』論(1)」(もぐら通信第66号)の「5. 1. 4 『カンガルー・ノート』の形象論」の「(6) 二種類の救済者」で述べた通りに、「文脈によつては、この二人の未分化の実存の大人と子供の女性は、等価で交換可能であるといふことに」なる其の文脈が、この新交通体系の提唱といふ章にはあるといふことです。

それでは、その文脈は何かといふと、一つの交通体系から逸脱して、待避線に入る場合、それも其処に至るまでに「運河めぎして地下の行動を疾走していたときの感覚」を持つて「待避線」へと「すれちがった遊園地の周遊電車に垂れ目の少女が乗っていた」ときなのです(146ページ下段)。このことが第5章の新交通体系の提唱といふ章の題名に深く関係してあるわけなのです。

第5章の新交通体系の提唱といふ章で、『通りゃんせ、通りゃんせ』の古謡によつて、通りゃんせの繰り返しの呪文の後の其の沈黙と余白のテキストに歌はれてゐる天神様をお参りすることで、この二種類の未分化の実存の女性が等価交換可能であり、作品の文章（テキスト）の内部と外部の交換ともどもに、さうなることの詳細な理由は、「（6）二種類の救済者」と「（15）満願駐車場の呪文」（共にもぐら通信第66号）に詳述しましたので、ここでは再説せず、先を急ぎます。それから呪文に関係して、『ひとつ積んでは父のため』その他の記号化された言葉が此の章には出て来ます。これらの言葉の意味は、カンガルー・ノート論（1）（もぐら通信第66号）の「3. 『カンガルー・ノート』の記号論」に示した通り、

『 』：存在の中の存在の詩人または其の物語の作者《縞魚飛魚》の書いた物語についてのものであることを意味する。

といふ事でありますので、上記「5. 4. 4（3）結末継承（小）」で述べた通りに「第4章と第5章に差異はなく、章としては同じ平面にあることを示してゐる」のですし、従ひ、《縞魚飛魚》が此の章にも隠然として存在してゐる事になり、といふ事は『大黒屋爆破事件』の（作者《縞魚飛魚》と同一人と思はれる）註釈者〔緑面の詩人〕もまた生きてゐることになり、となると、この章の話者は、カイワレ大根の主人公の他には、依然として此の2人であるといふ可能性も十分にあることとなります。

「3. 『カンガルー・ノート』の記号論」によれば、

[]：存在の中の存在の中の存在であることを意味する。

といふわけですから、存在の三番底が相変はず此の章にも接続されて通じてゐると理解することができます。となると、この章の話者は〔緑面の詩人〕かも知れません。更に、といふ事は、やはり此の作品の構造は、記述の通り、『箱男』と同じ構造をしてゐることが、ここでもわかります。勿論、この構造の根底にある文法学でいふ話法（mode：モード）は、安部公房固有の話法である「僕の中の「僕」」といふ二重構造の話法、もつと云へば、存在の話法といふべき話法〔註1〕、意識・無意識往還話法〔註2〕です。

[註1]

この話法については『デンドロカカリヤ論（後篇）』（もぐら通信第54号）を参照ください。詳述しました。

[註2]

理論的には、この話法のことは、20歳の論文『詩と詩人（意識と無意識）』の詳しい。（全集第1巻、104ページ）

（『『カンガルー・ノート』論（15）：5.4 第5章新交通体系の提唱』の「5.4.6（5）呪文を唱える」の「(B) 呪文らしい呪文」（もぐら通信第81号））

この周辺飛行の交通体系の切り換えの交差点は一体どこにあるかと探してみますと、やはり跨線橋といふ橋が最初のところに出てきて、ここが叙述論理上の切り換えの交差点になつてみます：

「とくに国鉄駅から環状線に乗換える、跨線橋の長い階段あたりが、女性旅行者の難所として知られているという」ことなのです。この交差点は、同時に性愛に満ちた交差点であつて、「男性が女性の後方から性行為を行うかぎり、条件のいかんにかかわらず、正当とみなされ咎められることはない」

といふ交差点である。

この公然の秘密を、安部公房は「風習」と呼んでゐる。これによつて、風習とは、公共の場所に隠された秘密の規則の一つであることが判ります。

これが交通体系の旧である国鉄線から阿波といふローカルな地方線といふ支線である筈の環状線へと切り換はり、そして何が切り換はるかといふと、国鉄線といふ全国線が支線の地位に落ち、支線であつた筈の阿波環状線が本線へと切り換はる。この線に乗つてゐる「主体の不存在」である話者が、この列車に乗つて支線であつた筈の線から、いつの間にか（これが超越論）本線へと変形した路線に乗つてしまつてゐるのです。

当然のことながら、現実の中で覚醒後に地図を調べても「四国の徳島という地名以外は、すべてが完全な作り事で、そんな風習はもちろんのこと、阿波環状線などという鉄道だって（ちゃんと地図に当て調べてみた）、まったく架空の存在にすぎないのである。」

次に「主体の不存在」についていへば、「この阿波環状線の夢には主体（私）の存在がまったく欠けていた。」安部公房がこれまでみた夢とは異なり、この夢の面白い特徴は「情景はもちろん、登場人物が一切存在しない」ことである。「あるのはただ認識だけ。聞き手も語り手もない。純粹な認識だけなのである。認識は構造であつて、存在ではない。するとぼくは夢の中で、非存在をみてしまったのだろうか。」

「認識は構造であつて、存在ではない。」といふ安部公房の認識は正しい。これを論じて証明すると哲学の認識論になります。構造は存在ではないといふ交差点で、認識論と存在論は明確に一線を画してゐますが、しかし、以上の如く、夢と現実の交差点で、この二つの哲学論もまた一線を画することが、実は、難しいのです。さうして説明が全くつかない。だから、「夢が自己検閲による変形の産物だという、フロイド流の解釈を受け入れることは、この夢に関するかぎりまったく不可能である。」

さう、そして此处で、Kobo Abeの個別言語を超えた、算術演算でいふ否定の掛け算（論理演算でいふ否定論理積）の、topologicalな決めゼリフが発動する。

「だが、すべての夢が、自己検閲によって変形されるとは限るまい。」

（傍線は引用者）

安部公房の此处から先の論理展開（論旨）は、従ひ、この論理によつて解釈すれば、だから、（以下引用の原文は傍線は傍点）

（1）「まったく架空の内容にもかかわらず、百科辞典の記述を思わせる明快さがあり、いわゆる夢のようなと形容される像の歪曲がほとんど認められない。」

「同時に日常感覚を惑乱さえるほどの力もない。出来事のわりに、きれいに割り切れていて、驚きを感じさせないのである。」さらに、

（2）「主体が欠如している点についても、それなりの説明はつく」といふのは、職業柄「日頃から言葉の操作に従事しているぼくのような場合、イメージをともしなわなない言葉だけの網が編まれてしまう可能性だってあるわけだ。夢を見たという表現は、もはや適切ではなく、夢のなかで言葉が編まれた、とでも言い替えるべきだろう。」しかし、このやうな

（3）「見なかった夢を、見たように書くわけにはいかない。」それ故に、

（4）「この体験は、書くという行為のもつ意味を、あらためて考えさせてくれるものだった。」

安部公房の結論は、この夢体験に接して、「見なかった夢を、見たように書くわけにはいかない。」といふことですが、これを自らに禁じて（これが安部公房の禁忌です）、何よりも「まず、見なければいけない。そして、確実に見たかどうかを繰り返し自分に問い正してみよう。見たものと、見なかったものとを、厳正に選り分けて、見なかったものを捨て去ることにためらいを見せないことだ。捨てるいさぎよさが、たぶん書くという行為に、必然性を取り戻してくれるはずである。書くべき夢は、見た夢であり、だからこそ書くことも可能なのだ。」

あなたは、この言葉を聞いて、何か思ひ出すものがないでせうか。これは成城高校時代の哲学の親しき友、中埜肇への、リルケに関する安部公房（あべきみふさ）の書いた次の言葉に同じなのです。安部公房スタジオの俳優たちのために書いた此の認識論は、安部公房のリルケ理解でありリルケの詩に関する認識であるのです。引用します：

「中埜君、

御変りありませんか。昨日やつと旅行から歸つて参りました。永い旅でした。丁度リルケがロダンから學んだ如く、僕もリルケから「先ず見る事」を学びました。そして旅とは、きつとそんなものなのでせう。僕は二つのものを此の旅から學んだと思ひます。（略）」

（『中埜肇宛書簡 第5信』全集第1巻92ページ上段）

この認識と「見なかったもの」を捨てる決意する勇氣（といふべきでせう）を自己のものとするために、安部公房はいつも存在を求める無名の旅に出てゐた。そして、その旅が日常になつた。

ナンシー・K・ハーディン（旧姓シールズ）によるインタビューで安部公房は、同じことを詩との関係で、小説と眼（視ること）の関係について、安部公房の文学を理解する上で大変重要なことを次のやうに語つてゐる：

「安部 たしかにぼくの作品には詩的な傾向があると思います。でも自分が詩人だというには抵抗がありますね。詩と比べると小説にはある種自己矛盾する要素がある。その要素とは、小説の「眼」の機能です。その眼が直視するのは、詩的なものと詩的でないものとのあいだの領域です。

——詩的でないものとは、現実的なもののことですか。

安部 いえ、そういう意味ではないし、客観的なものという意味でもありません。一方ではある対象は簡単に意識を通り過ぎて行きます。でも他方では通過しないで引っ掛かってしまう対象もあります。ある時には対象は意識の中にあるものと同一視することができますが、別な時には、それは意識にとって障害物と見なされます。この両極端のあいだを直視するのが、小説の役割です。

—あなたが興味をもっている詩人がいるとしたら、それはリルケではないかと思つていましたが。

安部 若い頃はリルケを読みました。戦時中には特に強い興味をもって、詩はもちろんのこと、『マルテの手記』もよく読みました。『マルテ』は好きですが、どうも彼の世界観はエゴイスティックすぎるきらいがあります。でもリルケは、詩的なものと反詩的なものとのあいだにある対象を観ることにかけては、天才的な才能をもっていたと強く思います。」

（『〈安部公房との対話〉』全集第24巻、473ページ上下段）

2. 夢と現実

この掲題については以上の説明で足りてゐるでせう。

3. 見ると見ざるの厳正な区分

これについても、既に「交通体系と公然の秘密」で話したところです。それほど此の組み合わせは、安部公房にとって非常に本質的な主題であるのです。この「周辺飛行」の連載の中ではもう少し後に「公然の秘密」と題して、全く異なる形象のもとで再び出あふこととなります（「周辺飛行39」）。

この眼をしかと持つことがニュートラルな存在になることであり、かうでなければ、俳優はニュートラルな演技を演技することはできない。

と書きながら、安部公房はなんとまあ、一級に難しい要求を若い役者たちに課したのか。こと存在に関しては、情け容赦のない安部公房である。

この「公然の秘密」と題した周辺飛行が、後年『仔象は死んだ』といふ舞台になることは、読者ご存知の通りです。

さうさう、最後に付言すれば、何故跨線橋で「男性が女性の後方から性行為を行う限り、条件のいかんにかかわらず、正当と皆され咎められることはない」かといふと、それは「荷物をもって階段を上っているときの女性の姿勢が、いかに無防備なものかは、あらためて説明するまでもないこと」だからです。何故、説明を要しないかといふと、荷物とは鞆なのであり、いやまた袋といふいづれも凹の形象なのであり、これの形象を最初は片手にささげてゐても、いつの間にか内部と外部が等価交換されてゐて、箱の中に閉ぢ込められてゐるといふ切り換へのスイッチの入る地点が、橋なのであり、橋の一種である跨線橋であるからです。

さういへば、「緑色のストッキング」の意味が、生と死への切り換へ地点の袋凹であるといひかへれば、この戯曲の主題といひ、動機といひ、舞台設定といひ、これらが一つになつて「阿波環状線の夢」であると気付くこととせう。さうでした、羊の腸もまた袋なのであり、ストッキングと同じ形象であるのです。何故ならば、topologyは素材を問はないからです。それ故にコーヒーカップがドーナツであり、後者は前者である。Wikipediaの「位相幾何学」に此の連続的変形の動画があります：<https://ja.wikipedia.org/wiki/位相幾何学>

安部公房曰く「こんどの舞台では、出来るだけ見なかったものを排除して、見た夢だけの表現に挑戦してみたい。見た夢だけが表現に値いするのは、なにも文学だけに限ったことではないはずだ。」

「見た夢だけが表現に価いするのは、なにも文学だけに限ったことではないはずだ。」といふ内部と外部を等価交換して余剰といふ富を創造する topology の論理で、この周辺飛行は終はつてゐます。

このやうな存在の、ニュートラルの交差点に無名のものとして立てば、文学の範疇にある小説も戯曲も、そして上演される舞台も皆文学として同じことでありませう。確かに、これは安部公房の世界です。安部公房の一人娘ねりさんが生前、安部公房スタジオの舞台と小説の関係を誰か説明してくれないかといふ発言が記事なつてゐる文章を読んだことがあります。ここまで来れば、これまでの周辺飛行の読みも重ねて来てみれば、遙々と来つるものかは此処までも、遂にはねりさんの質問に回答したことになるのではないでせうか。

次の周辺飛行は「アリスのカメラ」です。

このカメラと云ふ映像機（写生機）は、映画のカメラ（映像機）と同じで、 topology の論理で非ユークリッド幾何学の世界を現出せしめる、安部公房にとつては、道具なのです。前者のカメラは現実を静止画像で写し撮り、後者のカメラは現実を動く画像（動画）として写し撮ると云ふ違ひはあるにせよ。カメラの窓と白い映写幕は、それらの枠も含めて、安部公房にとつては、あの「奉天の窓」なのです。そして、窓の向かうに見える世界は、交通体系の切り替へと公然の秘密の世界であると云ふことに、この周辺飛行では、なります。



目次

Part I 塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔
5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔
6. 安部公房の塔と大江健三郎の塔
7. SF文学史を伝統的な日本文学史に上位接続 (conjunction) する
8. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔
9. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔 $\neg(F \times f)$

Part II 『文章読本』論

8.2 SF文学史を伝統的な日本文学史に上位接続 (conjunction) する

この章の目的は、これまでの明治時代以来の日本近代文学と呼ばれる文学が、実は正宗白鳥のいふ通り植民地文学であつたのであるといふことから眼を背けることなく事実の認識をしたことの上に立つて、以上のことから問題の提起と原因の分析は終はつたので、ここでは掲題の通りのことを、日本近代文学が植民地文学であることを断捨離し、近時流行の言葉でいへば鬼滅するための解決策として提示するものです。

神仏習合の分離と廃仏毀釈が如何に私たちの生活を貶め、それまでの生活の日常と欧米から流入する文物の求めることの間に分裂し、私たちが苦しんできたかは、詩人と小説家の生きる姿が明らかにしてありますので、この解決策の提示、即ち新しい文学観と文学史の提示は私たちの全ての意義における分裂から私たちを救済するものであることを確信してあります。

8.2.1 一体二つの文学史はいつ何処で上位接続して一体になつたのか

この章の設問に答へることから、この章の本題を始めたい。勿論、一体は掛詞です。

問：一体二つの文学史はいつ何処で上位接続して一体になったのか

答：それは、安部公房が『S・カルマ氏の犯罪』で芥川賞を受賞した昭和26年（1951年）に始まります。この所謂純文学とSF文学との融合はこの後時間をかけて三島由紀夫が『美しい星』を発表した年昭和37年（1962年）の11年間の間に完成したと考えることができます。

後者の三島由紀夫のSF愛好家振りには、三島由紀夫の愛読者は全くといってよいほどに、1955年（昭和30年）に設立されたUFO研究団体「日本空飛ぶ円盤研究会」の会員で三島由紀夫があつたことの関係でしか、この作家のSF好きについては触れませんが、三島由紀夫と世界SF文学史との関係はもつと深く本質的なものであることは「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論」（もぐら通信第101号および第102号）で詳論しましたので、これを引用して、二つの文学史を一つに上位接続して一体としたい。これは後述します。

その前にまづ、『何故川端康成は安部公房の『壁』を芥川賞に推したのか』（もぐら通信第28号）を全文引用して、何故伝統的な日本的な作家とおもはれてゐる川端康成が、当時アヴァンギャルド（前衛）とおもはれてゐた安部公房を小説家として認めたのかをお話しします。『雪国』の冒頭のトンネルも『伊豆の踊り子』の天城峠のトンネルも、安部公房の世界に通じてゐます。安部公房の場合は例外なく、そのトンネルはバロック的な世界の果てに通じてゐる。安部公房に何故この二つの文学の思潮の合流点に立つてゐると断言できるかといひますと、安部公房を強く受賞に推薦した審査員が、川端康成と滝井孝作であるからです。前者は新感覚派と呼ばれた文藝思潮を起こして横山利一とともに登場した、さういふ虚構小説の大家であり、後者は志賀直哉に師事した私小説の大家です。安部公房の読者としては、安部公房の此の日本文学史上の重要な位置については誰にも文句はいはせない。といふ口上を掲げてから、本論に入ります。次の順序で話します。

- (1) 「何故川端康成は安部公房の『壁』を芥川賞に推したのか」を論じてから、その後
- (2) 「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論」から引用して、二つの文学史の同時代性の重なるの文学的な潮流の合流を吟味してから、最後に、
- (3) そもそも日本文学の小説とは何かといふ主題について、折口信夫著『古代研究 III—国文学の発生』に依つて、日本語の小説の本質について考察をしたい。

8.2.1.1 何故川端康成は安部公房の『壁』を芥川賞に推したのか

「最近ある理由があつて、それに前々から素晴らしい文章だと思つておりましたので、川端康成の作品の幾つかを読みました。

そのひとつ『伊豆の踊り子』を読んで、この若い人を発掘する名人であつた言語藝

そのひとつ『伊豆の踊り子』を読んで、この若い人を発掘する名人であった言語藝術家は、安部公房の『壁』所収の作品に（例えば『S・カルマ氏の犯罪』や『バベルの塔の狸』や『赤い繭』）、自分と同じ孤児の文学を見たのだなと思いました。安部公房の文学も孤児の文学です。

この見立ては間違っていないと思います。

そして、わたしが驚いたのは『片腕』という短編でした。

これは、男の主人公がある美しい女性の片腕を持って彷徨し、その片腕と生きた会話をする話です。あまつさへ、最後のところでは、自分の右腕と入れ替えてしまうのです。実にシュールレアリスティックの作品です。

Wikipediaにその解説がありますので、URLを示します：[http://ja.wikipedia.org/wiki/片腕_\(小説\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/片腕_(小説))：

「『片腕』（かたうで）は、川端康成の短編小説。ある男が、ひとりの若い娘からその片腕を一晩借りうけて、自分のアパートに持ち帰り一夜を過ごす物語。官能的願望世界を、シュール・レアリズムの夢想で美しく抒情的に描いている。」

「『片腕』について筒井康隆は、シュール・レアリズムを日本の感性で書いていることに感心したと述べ、特に驚いた箇所は、主人公が娘の腕を雨外套の懐に入れ、夜のもやの町を歩く中、近所の薬屋の奥から聞こえてくるラジオの天気予報の内容が描写されているところだとし、「さすが東京帝國大學文學部、シュール・レアリズムの精神をよくぞここまで日本に写し変えたものだとぼくは嘆息した。現実と非現実すれすれのはざままで勝負していて、踏み出し過ぎることがない。この芸当を学ばねばと思い、以後これはファンタジイを書くときのぼくの目標となった」と語っている。」

「主人公が娘の腕を雨外套の懐に入れ、夜のもやの町を歩く中、近所の薬屋の奥から聞こえてくるラジオの天気予報の内容が描写されているところ」という指摘は、安部公房の世界にまっすぐに通じています。

この指摘を容易にすることのできる筒井康隆という作家も大した作家です。

この川端康成のラジオは、『砂の女』の主人公が女に買ってやるよというラジオであり、『友達』や『密会』やその他の作品の、登場するときにはいつも物語の最後に登場する「明日の新聞」であることの深い意味を、川端康成も孤児としてよく

知っていたということなのです。

このような川端康成であるからこそ、安部公房を認めることができたのです。1951年。このとき、川端康成、52歳。安部公房、27歳。

安部公房は、芥川受賞時の言葉として、次のように言っております。

「意外だった。まるで想像もしていなかった。（略）だが、ぼくが芥川賞を受けたことについて、その本当の意味を語りうるのが何年か先のことであるように、今のぼくの気持ちを、客観的にのべることができるのは、更はずっと先のことであるように思われる。」

しかし、このわたしの文章は、安部公房の冒頭二行の驚きの言葉に対して、何故それが意外なことではなかったのか、「更はずっと先の」の21世紀の今答えたことになるのではないのでしょうか。

[註]

『片腕』は、1963年（昭和38年）、雑誌『新潮』8月号から（12月号は欠載）翌年1964年（昭和39年）1月号にかけて5回にわたり連載されました。安部公房が『砂の女』を出した翌年ということになります。

誠に興味深いことは、孤児として天城峠を超える『伊豆の踊り子』の主人公は、やはり峠を上位接続（論理積：conjunction）の接続点として歌う安部公房の主人公に通っているということです。この二人の作家は峠を共有しているのです。

「北向きの小窓の下で
橋のふもとで
峠の下で
その後
遅れてやってきた人さらい
会えなかった人さらい
わたしが愛した人さらい

遅れてやってきた人さらい
会えなかった人さらい
わたしが愛した人さらい

（オタスケ オタスケ オタスケヨ オネガイダカラ タスケテヨ）」
（『カンガルー・ノート』。全集第29巻、188ページ下段）

この詩を読みますと、峠の下で人さらいを待っているこの話者は、人さらいには会うことができないので、さらってもらって峠を超えることができたのかできなかったのか。

この詩の直前には、この歌を歌うBという人間の声が「Bの錆びた笛のような歌がつづいた。」とあって、この詩になりますので、やはり笛ということから、既に『もぐら感覚17：笛』（もぐら通信第15号）で論じましたように、この詩もまた、同じ『カンガルー・ノート』の「6. 風の長歌」で出て来る草笛と同様に、主人公にとっては死の笛の音による歌なのでありましょう。人さらいにさらわれて死の世界へ行くことが、この話者にとっての救いであり、助けられることなのです。この詩のあとに、新聞からの抜粋の囲み記事の体裁をとって（これがいつも、安部公房の物語の最後に登場する「明日の新聞」の意味なのです）、主人公の死の報道が引用されてこの小説が終わるのは、必然的な結末ということになります。『砂の女』も同様でした。

さて、安部公房を強く推したふたりの選者、即ち川端康成と瀧井孝作の選評を転載します。この選評を読みますと、瀧井孝作という私小説作家が、私小説を全面的に否定する安部公房を推したことが興味深い。瀧井孝作は安部公房の文学が仮説設定の文学であることを見抜いております。

1. 川端康成：川端康成全集第34巻。昭和57年12月20日発行。320ページ。新潮社。

「第二十五回 昭和二十六年上半期
（他） 安部 公房「壁」

石川利光「春の草」（そ

「壁」を推す。

堀田善衛氏の「歯車」か安部公房氏の「壁」を私は推薦したかった。理由は簡単である。堀田氏や安部氏のやうな作家が出て「歯車や「壁」のやうな作品の現はれることに、私は今日の必然を感じ、その意味での興味を持つからである。「壁」も「歯車」も作品として缺點は多いだらう。「壁」は冗漫と思へた。また部分によつて鋭敏でない。「歯車」は注文通りの類型と思へるところがある。しかし、二つとも作者の目的も作品の傾向も明白であつて、このやうな道に出るのは新作家のそれぞれの方向であらう。「歯車」は最近の翻譯小説の幾つかを連想させ、比較もされて、それが賞を逸する原因の一つともなつた。作者としてはやむを得ないことのやうだが、つくりものの縄も目立つ。しかし堀田氏は発展してゆく作家だらう。私は堀田氏をしばらくおいて、安部氏の「壁」に投票した。その他の候補作品は新味が乏しいと思つた。好奇心といふ言葉を、いい意味に解して、私の好奇心を誘ふものがない。石川利光氏の「春の草」も、特に推薦するほどの作品ではなからうが、石川氏がすでに確實な作家であり、この作品にもそれが現はれてあるといふことは、私も認めないわけにはゆかない。富士正晴氏の「敗走」も確實であつた。安岡章太郎氏の「ガラスの靴」には特色があつた。

（昭和二十六年十月號）」

2。瀧井孝作：瀧井孝作全集第7巻。昭和54年3月25日発行。中央公論社。

「第二十五回芥川賞選評 受賞作 石川利光「春の草」・安部公房「壁」

架空の小説

(略)

安部公房氏の作は、人間の十二月号で「三つの寓話」といふのを初めて読んで、これは短編の「赤い繭」と「洪水」と「魔法のチョーク」と三つで、随分毛色の異なつた作だと思ひました。また近代文学二月号の「壁」と、人間四月号の「バベルの塔の狸」など読んで、この人の本物である事が分かりました。これは、このやうな寓話諷刺の作品にふさはしい文体がちやんと出来ているからです。文体文章がちやんと確かりしてゐるから、どんな事が書いてあつても、読ませるので、筆に力があるのです。自分のスタイルを持つてゐる。これはよい作家だと思ひました。それから、この人の経歴は、出身地は満洲瀋陽市、昭和二十四年東大医科卒業で、この経歴から、このやうなバタ臭いやうな作品も、この人の身についたものと分かりました。尚、群像七月号の「手」と「事業」と云ふのを読みました。これは筆致が強く諷刺も逞しく、この作家はこの作家なりに成長してゐると思ひました。私は今回はこの二人を推したいと考へました。石川利光氏も安部公房氏も、兩人共、夢と想とで小説を作つてゐる、架空小説の作家だと思はれますが、架空小説もこれだけに出来れば宜いと考へました。」

(1) 川端康成の指摘は、安部公房の「壁」のやうな作品の現はれることに、私は今日の必然を感じ」といふこと、即ち時代の必然であるといふこと。

(2) 瀧井孝作の指摘は、「このやうな寓話諷刺の作品にふさはしい文体がちやんと出来ている」といふこと、即ち文体を持つてゐるといふこと。

煎じ詰めれば、時代の必然と文体、この二つです。

この二人の批評の言葉は更にSF文学と伝統的な日本文学との結合点に立つてゐる安部公房の位置（本当は地位といふべきです）を補強するものです。

8.2.1.2 「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論」から引用して、二つの文学史の同時代性の重なるの文学的な潮流を吟味する

「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論（前篇）」（もぐら通信第101号）より引用します（後篇は第102号に掲載）：

「本邦最初のSF文学の批評家石川喬司は当時の伝聞として次のことを「三島由紀夫とSF」といふ文章の冒頭に書いてある（『ユリイカ』昭和五十五年四月号）。1970年（昭和45年）の三島由紀夫の死後十年後です。『美しい星』は1962年（昭和37年）の発表。

「三島由紀夫はSFファンだった。あるとき北杜夫と一緒に街を歩いていて、書店に『SFマガジン』の最新号が並んでいるのをみつけると早速それを購入し、「これで当分仕事ができなくなるぞ」と例の高笑いを響かせた、という話を聞いたことがある。」（「三島由紀夫とSF」、『ユリイカ』84ページ）

以下、このSF文学の一級の批評家から、といふ事は当時のSF文学の世界から見た三島由紀夫の文学と其のSF文学観を整理しながら、本題『美しい星』を論じ、最後に何故第二次世界大戦後に冷戦が始まるとともに空飛ぶ円盤が最初にアメリカで発見されて、UFOと記号化されるほどに至つたのかに言及して、この作品の時代背景と、今に生きる此の作品の意義を論ずることにしたい。

1。三島由紀夫のSF観

1965年（昭和40年）、やはり同じSF文学界の優れた批評家であり作家である山野浩一宛の手紙に、三島由紀夫は次のやうに書いてある。

「日本ではSFが、一般批評家に親しまれるにはまだ間があり、文芸批評家の頭の固さでは、なかなか思はれますが、私自身作者の立場としては、将来最も怖るべきジャンルと考へてをります。日本文学が知的な成果をあげるには、この方法以外にはないのではないかとさへ思はれます。」（「三島由紀夫とSF」『ユリイカ』85ページ）

三島由紀夫（以下単に「三島」と呼ぶ場合がある）の考へるSF文学の持つ「この方法」とは、かいつまんで言へば、両極端なるものの統合による虚構化、あるひは虚構化による両極端の統合といふべきものです。これは、安部公房が考へる仮説設定の文学といふメタSF観に一致してある。安部公房ならば幽霊と生きた人間、日常と非日常、夢と現実、裸体と衣裳その他ありとあらゆる二項対立を否定し、これらを超越した第三項を求めるといふ考へ方に、三島の考へるSF文学観は一致する。但し、この第三項が、三島由紀夫の場合には、自分の肉体から言葉の侵食した領域を

排除した残りの肉体、即ち純粹なる肉体、即ち存在なのであるところが〔註1〕、安部公房の存在概念とは異なるが、これは「『夢の逃亡』論-夢と現を、安部公房は等価交換し、三島由紀夫は等価並行宰領する~」（もぐら通信 第99号および第100号）で詳細に論じた通りです。

〔註1〕 『太陽と鉄』に、言葉と肉体の関係する三島の次の言葉がある。

「そもそも、私の存在を保障してゐる言葉といふものが、私の存在の条件を規制してゐる以上、「別の存在の手続き」とは、言葉の喚起し放射する影像の側へ進んで身を投げ出すことであり、言葉によつて創る者から、言葉によつて創られる者へ移行する事であり、巧妙細密な手続きによつて、一瞬の存在の影像を確保することに他ならなかつた。（略）言葉による存在の保障を拒絶したところに生まれたそのやうな存在は、別のもので保障されなければならぬ。それこそは筋肉だつたのである。」

三島由紀夫の肉体を媒体にして虚構と現実その他の両極端の結合による宰領を図り、時間の中の現実を瞬間の連続に生きる純粹な肉体である存在概念の問題として此の結合をしようといふ思想に基づいて、石橋喬司の論考の教へるところによつて引用すれば、三島由紀夫は此の文学観の此の方法について『小説家の休暇』の1955年7月19日に、次のやうに書いてゐる。

「雨ふり、又晴れ、又曇る。颱風（たいふう）の来襲が近い空模様である。来客二人。ジュネーヴで四巨頭会談がひらかれてゐる。トニー・谷の子供が誘拐された。われわれは「知的」な、概観的な時代に生きてゐる。これはほとんど巨人時代で、世界像がこんなにひろがりをつたはたなく、航空の発達、通信の迅速は、太平洋もひとまたぎと思はせる。もしその上、われわれが巨人の感受性にめぐまれてゐたら、水素爆弾の実験も線香花火のごときものであらう。

（略）現代の人間概念には、おそろべきアンバランスが起つてゐる。広島原爆の被災者よりも、あの原爆を投下した人間に、かうしたアンバランスはもつと強烈に意識された筈であつた。（略）ところが、かうした原爆投下者の意識は、今日われわれの生活のどの片隅にも侵入してゐて、それが気づかれないのは、習慣になつたからにすぎないのである。われわれは、新聞やラヂオのニュースに接したり、あるひは小さな政治問題にひそむ世界的な関聯に触れたり、国際聯合を論じ世界国家を夢想したりするときのみならず、ほんの日常の判断を下すときにも、知的な概観的な世界像と、人間の肉体的制約とのアンバランスに当面して、一瞬、目をつぶつて、〈小さな隠微〉、〈小さな抑圧〉を犯すことに馴れてしまつた。瞬間、われわれは巨人の感受性を持つてゐるやうな錯覚におそはれる。私が諷（ふう）して巨人時代といふのは、このことを斥（さ）すのだ。

一方では、通信交通の発達から、精神のゆつくりとした統一と綜合の作用は追ひ抜かれ、哲学の使命である世界把握は、普遍的な概観的世界像によつて追ひ抜かれた。今日、斬新な哲学は、ニュースによる世界把握の上に組み立てられ、哲学のみが世界像の把握に到達する唯一の小径（こみち）であつたやうな嘗ての状態は消滅した。そしてこの世界像を更新し、拡張してゆく作業を、今では科学が受け持つてゐるのである。

精神はどこに位置するか？精神は二十世紀後半においては、人間概念の分裂状態の、修繕工として現れるほかはない。統一と綜合の代理に、あの二つのものの縫合の技術が、精神の職分になるだらう。それがどんなに不可能に見え、時にはどんなに「非人間的」に見えても、精神はこの仕事のために招かれてゐるのである。その縫合の結果が誰に予見できよう。もし再び、肉体的制約の中へ人間が確固として立ち戻り、科学のあらゆる凶暴な進歩を否定することにならうと、それが簡単に精神の勝利だと云へやうか？また、万一、各人が肉体的制約を離れて、まさしく巨人の感受性をわがものにするようにならうと、それが簡単に精神の敗北だと云へやうか？精神は縫合をすませれば、いずれは本来の動きに戻つて、しやにむに統一と綜合へ進むだらう。

さて、藝術は、もつとも頑なに有機的なもののなかに止（とど）まりながらも、もし精神がそれを命ずれば、どんな怖ろしい身の毛のよだつやうな領域へも、子供じみた好奇心で、命ぜられたままに踏み込んでゆくにちがひない。」（『小説家の休暇』七月十九日（火））

21世紀の今読んでも文章そのものと、其処に書かれて指摘されてゐることは実的確であり、もし此の三島の当時の現状分析を21世紀の今の時点から振り返つて見れば、「ニュースによる世界把握の上に組み立てられ」てゐた当時の「斬新な哲学」は、既に崩壊しつつある、否、超越論的に現象を読めば世界は差異であり時差といふ遅延がありますので、目には未ださうではないと見えてゐても実は「既にして」崩壊してしまつてゐるといふことだけが三島由紀夫にとっては新しい知見の筈です。しかし、今尚「現代の人間概念には、おそろべきアンバランスが起つてゐる」ことは依然として変はらない世界的な混乱の事態であつて、これが現下グローバリズムといふ名前の共産主義のもとで政治的・経済的・文化的な領域で侵略することによる混乱を引き起こしてゐる。三島由紀夫の文章に訂正すべき箇所は一つもないのは、これが楽観主義の未来予想ではないからです。

さて、いずれにせよ、三島のいふことは正しく、これが、三島の、肉体を媒体にして、虚構と現実、精神と肉体、科学と哲学その他の両極端の結合による宰領を図り、時間の中の現実を瞬間の連続に生きる純粋な肉体である存在概念の問題として此の結

合を図らうといふ思想の、時代との関係で述べられた論理です。

この同じ志を、即ち「裸体と衣裳」の関係、肉体と文学の関係を、死の年の昭和45年7月7日産経新聞に三島由紀夫は、次のやうにかいてゐる。これは、これまで意を尽くして論じて来たところに鑑みれば、特に「三島由紀夫の主観・客観等価並行宰領表」をご覧戴ければ、三島由紀夫の思想は十代の詩人の時代から此の最後の年まで、そして自己の死の未来をまで先取りした時間超越論的な小説『豊饒の海』を残して従ひ其の死後の今も尚、終始一貫して不変である事がお判りでせう。この一節もまた、この産経新聞の寄稿中にあるニュートラルや絶望といふ言葉と共に、どんなに安部公房と同じ語彙、同じ発想を共有してゐることか。たとへ方向が正反対の方向であつても。安部公房と同じ考へは赤字にして傍線を引きます。

「肉体のはかなさと文学の強靱との、又、文学のはかなさと肉体の剛毅との、極度のコントラストと無理強ひの結合とは、私のむかしからの夢であり、これは多分ヨーロッパのどんな作家もかつて企てなかつたことであり、もしそれが完全に成就されれば、作者と作られる者の一致、ボードレエル流に言えば、「死刑囚たり且つ死刑執行人」たることが可能になるのだ。作者と作られる者との乖離(かいり)に、芸術家の孤独と倒錯した矜持を発見したときに、近代がはじまつたのではなからうか。私のこの「近代」という意味は、古代についても妥当するのであり、万葉集でいえば大伴家持、ギリシア悲劇でいえばエウリピデスが、すでにこの種の「近代」を代表してゐるのである。」

このことを実に即物的に『太陽と鉄』には次のやうにF104ジェット戦闘機搭乗記録として三島は報告してゐる。これはSF文学に大いに関係があるので引用します。この論理と感覚が三島由紀夫をして『美しい星』といふSFを書かした。

「われわれの生きてゐる時代の一等縁(へり)の、一等端(はし)の、一等外(はず)れの感覚が、宇宙旅行に必須なGにつながつてゐることは、多分疑ひがない。われわれの時代の日常感覚の末端が、Gに融けこんでゐることは、多分まちがひない。われわれがかつて心理と呼んでゐたものの究極が、Gに帰着するやうな時代にわれわれは生きてゐる。Gを彼方に予想してゐないやうな愛憎は無効なのだ。」

2。内宇宙と外宇宙の結合と『美しい星』の世界同時代性

これは、SF文学の用語でいふと、内宇宙と外宇宙の統合を意味してゐる。SF文学の世界では、前者をinnerspace(インナースペース)と呼び、後者をouterspace(アウトースペース)と呼ぶ。この二つの宇宙とは如何なるものかといふと、後者は天文学的な宇宙を舞台にしたスペースオペラの世界、対して前者は人間の内面を舞台にした内的宇宙のことです。

この歴史的転換点が、即ち後者から前者へと世界のSF文学が大きく転換する丁度この時期に『美しい星』が書かれてゐるのです。巽孝之編『日本論争史』より引用します。

「六〇年代から七〇年代にかけて、英国作家J.G.バラードやブライアン・オールディスらが旧来の外宇宙指向を批判し内宇宙をつまびらかにした〈新しい波〉（ニューウエーブ）運動をめぐるSF論争が白熱し、[この後に詳しいSF転換点論争史は省略します] だから1960年を迎えて〈新しい波〉（ニューウエーブ）がその重点を外宇宙から内宇宙へ、ハードな科学からソフトな科学へ移行させることで対象を人間に絞り始め、具体的には心理学や精神分析学を援用の上、結果としてSFをモダニズム芸術史の部分集合とみたてることになったのは、現代SF論争史上、必然の過程だった。かくしてマイケル・ムアコック主宰の〈ニュー・ワールドズ〉誌（New Worlds, 一九四六年創刊、一九七一年終刊。ムアコック編集長就任一九六四年）を牙城に、バラードが〈新しい波〉（ニューウエーブ）宣言「内宇宙への道はどれか？」（"Which way to Innerspace?"一九六二）でSFがウェルズを祖先に持ったことを不幸とみなし、「科学小説」（サイエンス・フィクション）から「思索小説」（スペキュラティブ・フィクション）への転換を提唱して本質的な論争を挑み、そのSF革命思想を反映するような作品をつぎつぎと発表する。」（傍線引用者）（巽孝之編『日本論争史』4ページ）

この1946年から1971年までの〈ニュー・ワールドズ〉誌の発行の大体の中間地点、内的宇宙SFの登場による変革期といふべき1962年（昭和37年）のバラードの〈新しい波〉（ニューウエーブ）宣言「内宇宙への道はどれか？」発表の、世界SF史上記念すべき年に三島由紀夫の『美しい星』が発表されてゐるといふことは、三島文学のSF文学の領域に於ける世界同時代性を示してゐると断言して良い〔註2〕。

そして、日本列島に住む私たちにとって誠に興味ふかいことは、〈新しい波〉（ニューウエーブ）が誕生したのは、ユーラシア大陸の極西のブリテン島といふ島から生まれたといふことです。ユーラシア大陸の極東と極西で呼応し、同期し合った文学の新しいジャンル（genre：様式）が生まれた。日本で、上記の転換点にある其の最先端を行く作品が『美しい星』といふ作品です。石橋喬司の「三島由紀夫とSF」を読むと、実に精細に三島作品を読み込んでゐて、愛読者といふべき読者であることが判る。その理解の程度の深さについては、この論考の何処かで言及することにならう。問ふ、三島由紀夫の愛読者でSF文学の読者の有りや無しやと。言ふまでもなく、安部公房の読者はSF、それもメタSF（思弁SFまたは思索小説：Speculative Fiction）の読者と重複してゐるので、この問いは無用です〔註3〕。

〔註2〕

石橋喬司はフランスの文藝批評家R.M.アルベレーヌ著『二十世紀文学決算』から引用をして、三島文学の持つ世界同時代性を根拠付けています。従ひ、三島文学の此の性格と、また当然に国際的な作家安部公房の文学の持つ同じ性格から云つても、この著作は三島由紀夫と安部公房の1966年の対談『二十世紀の文学』と、当然のことながら、強い相関関係を持つてゐます。以下に村松剛訳で出版された同著から、石橋喬司の引用してゐる箇所を引用し、三島由紀夫と安部公房の文学の世界文学史上の意義を理解してもらひたい。これを論じ始めると、二人は（江藤淳の命名した）「閉ざされた言語空間」といふ此の「戦後」70有余年の閉鎖空間からはみ出して、本文で論ずることになるのは読んでくださつてお判りの通りです。この私の『美しい星』論は、主題がSF文学といふこともあつて、尚一層そのやうな論になる。

「……人間を拡大するものと、彼を自分の中に閉じ込めるものと、その両者の間には一般に共通の尺度が欠けており、ほかならぬそのことが、マルローとカミュとの作品の根底を形づくるドラマなのだ。（中略）社会性、詩的情緒、宇宙性、心理的性格、それらはいまだに、それぞれ別々の技法としてとどまっております、ある中心をもった一群の宇宙を構成するにはいたっていない。芸術のいかなる形式も、科学的世界と道徳的世界とを、結びつけることはできなかったのだ……。原子の運動は心情にとってなにほどのことでもなく、意識のドラマは超原子的空間におかれるとき、一切の意味を失つてしまう。……いっぽうには、宇宙の無限大に広大な尺度があり、その間には、当然あるべき幾千の段階が欠けているのである。ひとつのイメージが、ある世界が、一人の芸術家によって作りだされるとき、われわれが細分することをしか考えつかなかつたこの現代の物理的にして道徳的な、社会的にして心理的な現実に沿つて、想像力が駆けめぐらされるようになるとき、その日こそ、大きな発見がなされたといえる日であろう。」（R.M.アルベレーヌ著『二十世紀文学決算』村松剛訳）

〔註3〕

安部公房とSF文学者たちとの交流については、『安部公房文学メタSF論』（もぐら通信第62号）および『安部公房はいつまでSFの世界と交流があつたか』（もぐら通信第63号）にて論述しましたので、ご覧下さい。

もう少し世界SF文学と日本SF文学の同期と当時のUFOの流行について話したい。

『日本SF論争史』より更に引用します。少し長い引用になりますが、三島文学を、世界同時代性の視点から理解するためには、数学に長けた安部公房流の言ひ方をすれば、『美しい星』にはUFOの流行を中間項として理解する必要があるのです。『鏡子の家』と云ひ、『美しい星』と云ひ、三島文学の読者から見れば、三島文学の本流から外れてゐると考へる作品にこそ、世界文学への明瞭な道が三島由紀夫自身によつて敷かれてゐるのではないか？一体何のために？三島由紀夫の読者が「戦後」の閉鎖空間の壁を打ち破るためにこそ。再び安部公房流の云ひ方をすれば、『鏡子の家』と『美しい星』といふ長編小説は、「閉ざされた言語空間」に閉ざされて苦しんできた愛読者たちのために、三島由紀夫が遺産として遺（のこ）した暗号なのだ。さあ、この暗号を解読し給へ、さうすれば、君たちは自由の身だ、と。安部公房の世界からは、さう見える。

「英米におけるジャンルSFの黎明期は、一九一〇代後半から二〇年代にかけてのこ

とである。第一次世界大戦が終わり、荒地の彼方に光輝く未来が幻視されたジャズ・エイジの時代。かくして二六年、ルクセンブルク系アメリカ移民の技術者ヒューゴー・ガーンズバックは世界初のSF専門誌〈アメージング・ストーリーズ〉を創刊し、この新興ジャンル独自の市場を拓く。

一方、日本におけるジャンルSFの黎明期は二〇世紀中葉、五〇年代から六〇年代にかけてのことだ。第二次世界大戦が終わり、焼け跡の彼方によく復興期が構想された時代。かくして五七年に柴野巧美がSF同人誌〈宇宙塵〉を、五九年暮れに福島正実が早川書房のSF商業誌〈SFマガジン〉をそれぞれ創刊し、それが以後の日本SFなる概念を確立するのに重要な役割を果たす。英米SF史の常識に沿うならば、五〇年代は冷戦期パクス・アメリカナと連動した本格（ハードコア）SFの黄金時代、六〇年代はアポロ計画に象徴される外宇宙指向を批判する内宇宙指向すなわちニューウェーブSFの勃興時代であるから、日本SFは英米SFの激動期に共振するかたちで、すなわち最初から少々ズレたかたちで形成されなくてはならなかった。このことは、SFの未来が単純に国家政治の未来と重なった時代からSFの未来が世界文学の未来と不可分になった時代への移行に、英米は半世紀を要したけれども、日本はたかだか一〇年間ほどで駆け抜けてしまったことを意味する。そのことは、復興期の批評家・花田清輝がスーザン・ゾンタグにはるかに先駆けてSFの現代芸術的価値を認め、その弟子格の前衛文学者・安部公房が実作によってそれを証明し、さらにその後継者たる日本SF第一世代の代表格・小松左京が一気にジャンルSFを定着させるに至った経緯からも、容易に推し量られる。とはいえ、ここでひとつ注目したい共通点は、一九四〇年前半の〈アメージング・ストーリーズ〉誌に通俗（パルプ）SF作家レイモンド・パーマーが一通の手紙を元に書き上げた作品が掲載され、それが今日でいう「UFO神話」の起源を発明するに至ったこと、そしてじつはわが国でも、前記の〈宇宙塵〉の主要同人というのは柴野拓美を含め、それに先行して結成されていた「日本空飛ぶ円盤研究会」の会員であり、同誌の名称も当初は「宇宙人」と綴るはずだったことだ。現在であれば、UFOはトンデモ本的主題にすぎない。ところが四〇年代SFの一部は確実にUFOと連動するかたちで大人気を博しており、五〇年代における日本のSFファンは、まず空飛ぶ円盤への興味を共有するところから出発した。」（『日本SF論争史』の「復興期の文学」20ページ）

3. 日本近代文学の遅延とSF文学の豊饒

ここまで巽氏の文章を引き写して来て、このSFの戦後の圧縮された文学史は、明治維新以来の150年の日本の国の歴史の圧縮と同じだと私は思った。このSFの世界の歴史的事実から学ぶ教訓は、海外から入って来るものは思想であれ、文物であれ、日本に到着した時には皆本場からの既に時代遅れでのものであること、その発揮すべき価値に時間的なズレのあること、もつと云えば、入って来た時には既に本場では終はつてあるのだといふことである。して見れば、日本は此の150年間何

といふ誤解を近代ヨーロッパに対してして来たことか、流行遅れを最新のモード (mode) として囃し立てて来たといふことになる。春の被覆の流行 (モード) を秋のモードだと勘違ひをして来たことになる。今猖獗を極めてゐる海外から流入して来た最新のものは一体何かを問へば、あなたは流行に遅れるどころか、常に事実として最新の最先端にゐることになる。さうして見ると、政治の世界では、此の時差に、20世紀の古い用語であるが、保守と革新の違いがあることになる。これが私の保守と革新・左翼の定義である。後者は海外のものが最新のものと (時間的ズレがあつて既に古いものであるものを、それにも拘らず錯誤して新しいと) 主張するのに対して、後者はこれを一義的には全面否定する。そして、その否定の論拠が日本固有の伝統であるといふことになる。この場合、後者は、それでは、海外からの流行に対して、日本固有の伝統が如何に新しいかを証明して主張すべきであるものを、これを積極的に国内外に説得的な言論を生み出すことのできないままに今日に至つたのが保守の「戦後」70有余年であつたといふこととなります。何故か？ 古代の私たちが普通に知つてゐた超越論の哲学を、そして高天原と大八島のtopologyを忘れたからである [註4]。これが森羅万象の差異が世界認識である超越論に基づく保守と革新・左翼の定義である。文化がかくあれば、政治はかくあり、政治がかくあれば、今や経済もかくある通りである。筆が思はず逸脱したが、しかし、何をいひたいかといふと、この『美しい星』といふ作品と此れを生んだ土壌である日本SF文学といふジャンル (様式) は実に時代に鋭敏であり、海外からの時代といふ時間の圧縮に堪えて誠に文学的に豊饒であるといふことだ。旧態依然の三島文学の読者よ、刮目せよ。編者巽孝之氏は此の「復興期の文学」の最後に三島由紀夫の次の言葉を措いてゐるのだから。

[註4]

古事記とtopology、それから超越論の直接の関係については『安部公房とチョムスキー (8)』 (もぐら通信 第81号) に詳述しましたので、ご覧ください。ダウンロードは：<https://docdro.id/v2p5WaF>

「こうした「SF的知性」は荒唐無稽と一蹴されることのみ多かつたが、にもかかわらずそれがなければ人間が人類文明の「未来」を思索することはできない。黎明期の日本SF論争は、まさにこの立場を死守する戦後文学の一翼として、着実に理論的核心を練り上げた。その意味で、安部の好敵手でもあつた三島由紀夫もまた上述の「空飛ぶ円盤研究会」会員でありUFO小説『美しい星』 (一九六二年) を書いていたこと、しかも以下の一節を含むSF論を〈宇宙塵〉に寄せていたことは、特筆に値する。「SFは本来、いくら知的でありすぎてもよい自由なジャンルである。(中略) 私は心中、近代ヒューマニズムを完全に克服する最初の文学はSFではないか、とさへ思つてゐるのである。」 (「S・Fファンのわがままな希望」〈宇宙塵〉一九六三年九月号)

三島由紀夫の死は、見かけ上あのやうに政治的に見える死であつたがために、さうして見かけが事実であるが故に、三島の読者には、あの「癩王のテラス」での死が如何に文学的な生であつたかのかが顧慮されることが甚だ少ないやうに、安部公房の世界から見ると、見えるのである。何故なら、二人の共有したことは、

- 1。言葉によつて存在する
- 2。人間如何に死ぬべきか

といふ、この二つのことだからである。〔註A〕

前者は死ぬことであり、後者は生きることである。もし後者が死ぬことならば、前者は生きることである。

〔註A〕

安部公房は二人の共通点について次のやうに語つてゐる（『前回の最後にかかげておいた応用問題一周辺飛行19』全集第24巻、176ページ上下段）：

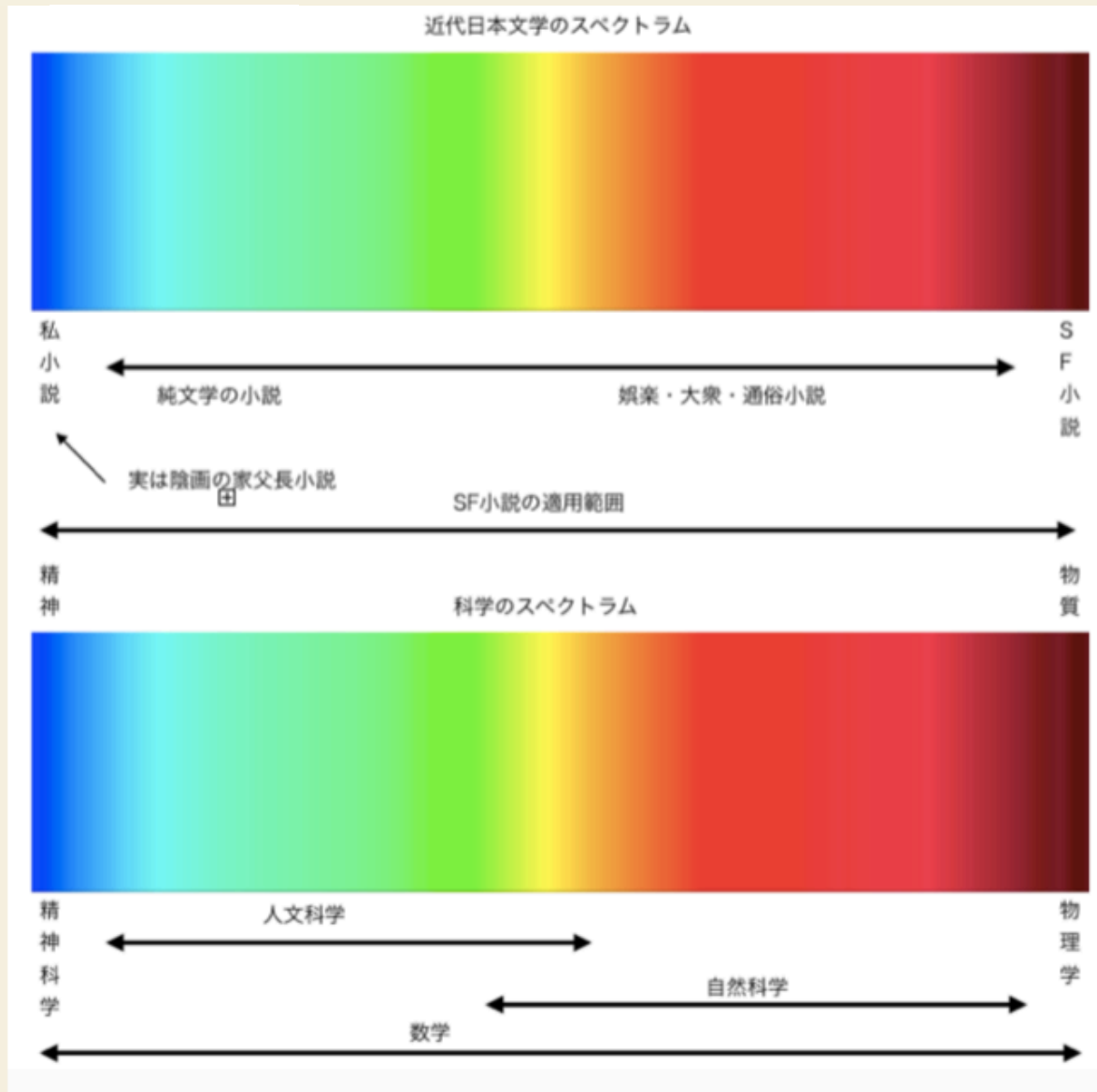
「俳優が、言葉に夜存在でなければならぬおは、戯曲以前の問題なのである。（略）

この問題を考えるたびに、しばしば三島由紀夫とかわした演劇論（というほど改まったものではないが）を思い出す。多くの面で、対立することの方が多かったが、言葉を喪つた俳優に対する絶望という点では、いつも奇妙なくらい意見の一致を見たものだ。（略）

たしかに三島君には、絶望するだけの根拠も資格もあつた。彼は言葉のなかに生きていた。あるいは、言葉を生きていた。彼自身、作品の前にすでに言葉によつて存在する作家だつたから、俳優に対しても同じ水準を要求できたのだ。（略）』

今、引用して写すと、この三島評はそつくりそのまま安部公房の自己批評になつてゐます。

二人の文学が、SF文学も含み、日本近代文学史上一体どこにあるのかを「近代日本文学のスペクトラム」（もぐら通信第61号）として階調表示をしましたので、ご覧ください。私小説、純文学、SF文学の領分の棲み分けが判ります。



また、芥川龍之介の『饒舌録』にある近代日本文学の小説分類を座標に起こして、安部公房のメタSF文学を入れたものを「芥川龍之介の小説観」（もぐら通信第81号）として作成しましたので、再掲します。『美しい星』を含む三島由紀の作品群は象限Aに位置してゐます。

			「話」有り	デッサンよりも色彩に生命を託した小説（例：ルナアル）：完成	
	通俗小説			芥川龍之介の理想の小説	
		B		A	
通俗的興味有り				詩的精神の有る小説A	通俗的興味無し
				『麒麟』（谷崎潤一郎）	
				私小説D	
		C		D	
	私小説C			詩的精神の有る小説D	
				『焚火』（志賀直哉）	
			「話」無し	デッサンよりも色彩に生命を託した絵（例：セザンヌ）：未完成	

上記の引用の最後に配置された二つの図から本論に於いて以下に初めてまとめると、安部公房と三島由紀夫の二人によつて、

(1) 日本文学スペクトラムの完成

「近代日本文学」のスペクトラム中の各小説の階調のあり様が、それぞれのままに一つになつたといふこと。いふまでもなく、SF文学の適用範囲はスペクトラムの全ての階調に亘つてゐる。

(2) 詩と小説の融合回帰

「近代日本文学の小説分類の座標」による「芥川龍之介の理想の小説」とした象限Aが二十一世紀以降の日本文学となる優位性を獲得し、これによつて、象限Aが他の三つの象限を束ねて座標の交差点、即ちニュートラルの存在に立つて垂直に全く次元を一つ上げた地平を切り拓いて水平に展開したといふこと、即ち上位接続 (conjunction) されたといふこと、そして、この場合本質的に特筆すべきは、詩と小説が再び一つになつたといふこと

(3) 文明批評能力を備へた文学

その小説が時間を越えた文明批評の能力を備へてゐること（例：安部公房ならば『第四間氷期』『カンガルー・ノート』；三島由紀夫ならば『花ざかりの森』『豊饒の海』）。文明批評能力を備へた文学とは方法論を自覚した文学といふ意味です。

この三つのことが実現したといふことです。

これが、この二人の近代日本文学史上の偉業なのであるといふこと、これが、私の結論です。

さて、こと此処に至つて、次の考察に至つて、古代からの日本文学の首尾一貫した日本文学史が生まれる。しかし、但し、といふ留保条件を此処で付けなければならぬ。以下同じ論考より再掲して、二十一世紀の現状に関し、文学の視点からの現状認識としたい：

「5. 19世紀文学の終焉と「戦後」ヨーロッパ文学の劣化

このアルベレーヌの『二十世紀文学の決算』といふ著作は「一九〇〇年から一九五六年まで、文学的感受性は変貌をとげてきた。」ことに関する著作です。この著作を読んで判る、もう一つ重要な事実は、既に此の著作の出版された1956年には、「前衛」の消滅と、この消滅といふ指標によつて示されるロマン主義の大衆化と通俗化といふことから判るやうに、フランスの文学界は劣化してゐたといふ事実の指摘です〔註10〕。フランスでさうであれば、この本を読めば文藝思潮によつて程度は異なるものの、隣のドイツもそうであり、ここからは私の推論ですが、大陸の二強国がさうであれば、ヨーロッパ全体の文学の質の劣化は顕著になつてゐたと解することができる。「戦後」の日本はここでも劣化の遅延を輸入して最新だと勘違ひしたといふことになる。

〔註10〕

この劣化を、著者は次のやうに書いてゐる。

「日常的秩序の外での思索に根ざす文芸。一九二〇年—四〇年の先端的文学は、老木と若木とのこの同胞愛を閉却してはいなかつたか。いっぽう一九四五年以後あらわれた文学。——質的には最低、包容力のうえでも貧弱をきわめており、日常的でそのうえしばしば愚弄的でもある文学。その今日の文学は、この誤りをすこしも改めてようとせず、高級な読者を絶望させてはいないのだろうか。」（『二十世紀文学の決算』、240ページ）

また、「戦後」流行したサルトル、ボーヴォアールとカミュの一九四五年以降の文学からの離反について、著者は次のやうに書いてゐる。

「一九四五—四六年のあの急上昇を代表する大作家たちは、すでに変貌をとげ、不和が彼らの間を隔ててきた。サルトルはもっぱら政治思想にはいりこんだ。シモーヌ・ド・ボーヴォアールは哲学と年代記に赴き、カミュは地中海的な、無政府的な夢想へと進み、その点で往年のジオノに近づいている。ところでそのジオノのほうは、人まねに憂き身をやつすというぐあいなのだ。」（『二十世紀文学の決算』、116ページ）

さて、1956年がさういふ年であるならば、前年1955年にドイツの文豪トーマス・マンの死がある。天才の死は時代の終焉を意味する。マンの二十歳の頃の友人宛の手紙を読むと、自分は作家として身を立てて時代を象徴する存在になりたいと書き、また或るエッセイの中では、自分は19世紀の作家であり、19世紀の時代に幕を引くのが自分の使命だと明言してあるので、これはマンのいふ通りに1955年には確かにヨーロッパの19世紀の文学は終焉したのだといふことを、フランス文学の現場からアルヘレスは報告してくれてみて、それがいみじくも「決算」といふ会計用語使った著作の題名になつてゐるのは、著者にも此の前世紀文学の終焉といふ意識があるからではないかと思はれる。即ち、第二次世界大戦といふヨーロッパとアメリカに原因した戦争は、ヨーロッパの人間達には19世紀の終焉と意識されてゐたといふことである。それでは、20世紀に幕を閉ぢるために第三次世界大戦をやるのか？といふことが現下の世界情勢の動きの根底にある此の地域の間人間の20世紀の政治と戦争に関する21世紀の問ひだといふことになります。

(略) 」

さて、上記の引用で私の施した傍線部でありましたが、これは二十世紀での認識、そして、しかし、二十一世紀もまた相も変はず、「それでは、20世紀に幕を閉ぢるために第三次世界大戦をやるのか？といふことが現下の世界情勢の動きの根底にある此の地域の間人間の20世紀の政治と戦争に関する21世紀の問ひだといふことに」実際にこれが現実となつたといふことになります。今や、ここに強調のための傍線を、このやうに引くべきでありませう。

従ひ、それ故に、さうであればこそ、私たちは、この世界の人類の歴史と現実の内部と外部に於いて、植民地主義に拠るのでは決してなく、日本古来の伝統と歴史と文化の基礎の上に、日本人として、日本文学について、日本語によつて、次のことを考へねばなりません。即ち、二十世紀までの資本主義でもなく（何故なら此れは取奪の植民地主義であるから）共産主義でもない（何故なら此れも取奪の植民地主義であるから）、第三の文学の道を求めるといふこと、即ち超越論または汎神論的存在論または鶴亀哲学もしくは鶴亀形而上学（詳細は『縄文紀元論』の連載を参照）に依る（安部公房のいふ）「特殊の中に普遍を求める」日本の文学を求めるといふことになります。この意義に於いて、世界観を示した安部公房の文学（存在論の文学）と三島由紀夫の文学（認識論の文学）は、この近代日本文学史の上位接続点（conjunction）に立つ統合（integrity・インテグリティー道徳と倫理のある統合）のための力を持つた文学であり、前者は空間の、後者は時間の文学でありますから、1945年（昭和20年）に分裂を強ひられた日本民族（the Japanese people）の精神の、思考の基礎たる空間軸と時間軸を一つにまとめ、存在の交差点に立つて二つの間を自由に往来することができます（存在の交差点については別途連載の『周

辺飛行』論を参照ください)。前者の存在の師石川淳が、その作風で既に示したやうに(例へば『狂風記』)、後者の師といふべき川端康成が、やはり其の作風で示したやうに(例へば『抒情歌』)、弟子に方法論があるからには、師匠に方法論のないわけがなからうといふものです。

SF文学の世界で、上記3つに対応することは、最初から次のやうな例を挙げるだけで読者には十分に意が通じると思はれる。大事なことは、日本のSF文学と海外のSF文学との間には時間的な差異(遅延)はないといふことです。これは、国の内外を問はぬ、世界同時性を備へた文学である。そして、これも大事なことは、少しも政治性がないといふこと、即ち、大江健三郎の文学を反面鏡とすれば、それだけ一層に文学的な、言語の側からの高度な文明批評能力を、この新しい日本文学は、備へてゐるといふことです。

(1) 日本文学スペクトラムの完成

このスペクトラム(階調図)を一覧の通りで、SF文学の適用範囲は文学の全域に亘つてゐる。

(2) 詩と小説の融合回帰

荒巻義雄の小説と詩集『骸骨半島』の名前で代表させます。国の内外を問はず、SF文学作品には詩的な抒情性(例:レイ・ブラッドベリー)と高度な論理性の融合のあることは殊更、これもいふまでもありません。『骸骨半島』は、「私の本棚」にて全20篇を詳細に論じました(もぐら通信第60号以降)ので[註19]、これをお読み下されば、文学基礎理論(哲学)と詩と小説の自由自在の融通・融合関係が御理解戴けることと思ひます。

(3) 文明批評能力を備へた文学

筒井康隆の作品群とシュールレアリスム、荒巻義雄の作品群と『術(クンスト)の小説論』およびカント哲学とマニエリスム、半村良の『石の血脈』と『産霊山秘録』(うぶすなやまひろく)と半村良独自の仮説設定の文学、異孝之のアメリカ論を含むSF文学論の批評作品群。文明批評能力を備へた文学とは、このやうに方法論を自覚した文学といふ意味です。

それから、最後に付け加へれば、

(1) 近代日本文学の跛行を、先の大戦後の時間に限つて、文学と言葉の視点から社会現象論として書いた『何故日本文学は衰退したのか?』(もぐら通信第79号、第81号および第82号)および

(2) SF文学と伝統的な日本文学およびSF詩と非SF詩の関係を論じた「荒巻義雄第一詩集『骸骨半島』を読む(2):老人と飛行士」(もぐら通信第61号)

この二つも併せてお読み下さると有り難い。

最後の最後の此の章の締めとして、『安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論（後篇）」（もぐら通信第102号）より引用をして、本当に終はりとしたい。これは欧米白人種アングロサクソン族のフルコースの料理の最後に出てくる巨大なるデザート（口直し）である。これが腹に取まらねば、彼奴等と対等に戦ふことができないのである。是非とも耐え難きを耐え忍び難きを忍んでもらひたい。痩せ蛙負けるな一茶ここにあり：

「（11）日本の文壇文学が何故滅んだかといふ原因も、ここまで論じると、明らかである。それは日本のSF文学の作家や批評家が世界SF文学を文明間の遅延を世界同時的に短期間で圧縮して自家葉籠中のものとするためにした方法論の論争と其の実作への応用といふ当然の努力をしなかつたからである。筒井康隆を見よ。〔引用者追記：そして此の同じ努力は十九世紀の明治時代の文学者によつて真摯になされたものであることを二十一世紀の私たちは思ひ出すべきです。〕この意義に於いて、

[註19] 「このSF詩人は、医学と医術との関係で、安部公房ならば真獣類Kと有袋類K'の関係、即ち人間と人間そつくりと同じ関係として『術の小説論—私のハインライン論』で、カントの三批判書を元に論じてみます。つまり、模型(model)と応用、理論と実践の関係です。『純粹理性批判』と『実践理性批判』の関係です。」（『安部公房文学メタSF論～記号と文字のtopology～』（もぐら通信第62号））

（12）三島由紀夫のいふ「SFは本来、いくら知的でありすぎてもよい自由なジャンルである。（中略）私は心中、近代ヒューマニズムを完全に克服する最初の文学はSFではないか、ときへ思つてゐるのである。」（「S・Fファンのおがままな希望」、〈宇宙塵〉一九六三年九月号）といふ三島の言葉を、『日本SF論争史』の「序説 日本SFの思想」の最に引用する此の序説に云ふ小説といふ虚構と批評の一体となつたSF文学のあり方は、これからも日本文学に益々必須の文学形態になるであらうと云ふこと[註20]。これは日本近代文学にあつては、小林秀雄が19世紀後半のフランスの象徴詩に学んで近代批評として確立した詩と批評の融合形態が、批評の分野ではこれが行はれてゐるが、他方、小説といふ形式に於いて小説と批評の融合形態の実現を理論と実践を両輪として行つて示したのが少なくとも三島由紀夫と安部公房といふ、接点を全て共有してゐて[註21]且つ方向は正反対の、そして（小林秀雄がフランス文学とフランス哲学であるのに対して）ドイツ文学とドイツ哲学に学んだこれら二人の、しかも対照的な作家であるといふこと。二人の共通点は、時代の批判（Kritik）と批評（Kritik）をするといふ意識のあり方から、常に理論と実践を並行して思考し、その実践もまた並行して徹底してゐるといふことであるといふこと[註22]。これは、小説といふ形式に於いて小説と批評の融合形態の実現を図る作家のモデルであらうといふこと。安部公房のやうに理論は厳密にモデル（模型、模式、模式図）であることが作家の能力によつては難しければ、三島由紀夫のやうに作家は思弁的なエッセイでまとめることでも私は良いと思ふ。

[註20]

内宇宙SF作家安部公房の人生の長さは、海外の外宇宙のSF作家たちの人生の長さにほぼ等しい。といふことは、『美しい星』を書いた一歳年下の三島由紀夫の人生の長さも、次の外宇宙のSF作家たちと等しいことを意味してゐる。

「アイザック・アシモフの生年は1920年1月2日から1992年4月6日といへば、そのまま安部公房の生涯に重なる(1924年(大正13年)3月7日 - 1993年(平成5年)1月22日)。ロバート・A・ハインラインは1907年7月7日から1988年5月8日)であれば、安部公房の発見者、埴谷雄高の生涯に其のまま重なる(1909年(明治42年)12月19日 - 1997年(平成9年)2月19日))。アーサー・C・クラークの生年は1917年12月16日から2008年3月19日であれば、二人の「不可能性の作家」の人生に、これもそのまま重なる。安部公房の存在の中での師匠石川淳の人生も(1899年(明治32年)3月7日 - 1987年(昭和62年)12月29日)で、ロバート・A・ハインラインの人生にそのまま重なる。勿論、安部公房の人生は、これらのSF作家の人生と其のまま重なつてゐる。そしてこれらの作家たちと同時代を共に生き、そして時代を超越したといふことです。」(『安部公房文学 メタSF論 d記号と文字の topologyd』(もぐら通信第62号))

[註21]

安部公房の言によれば、二人はあらゆる接点を共有していながら互いにすべての接点で正反対の方向、或いは接点そのものの陰陽が裏返っている(「彼との接点は、全部うらがえしになっている。」(「『対談』[対談者]大江健三郎・安部公房」全集第29巻、73ページ下段)。

[註22]

哲学とSF文学の関係は、次の通りである。これがSF文学の起源から、この文学が哲学的・形而上学的批評と結びついて、その歴史が論争の歴史である理由なのです。

「哲学者の次の系譜を考へる事ができる。

カントーショーペンハウアーニーチェーハイデッガー—ジャック・デリダ/ジル・ドゥルーズ(共にフランス)/ハラルト・ヴァインリッヒ(ドイツ)/ポール・ド・マン(アメリカ)といふ超越論(欧米白人種の反または超キリスト教の哲学)または汎神論的存在論(有色人種の多神的世界の哲学)の系譜です。

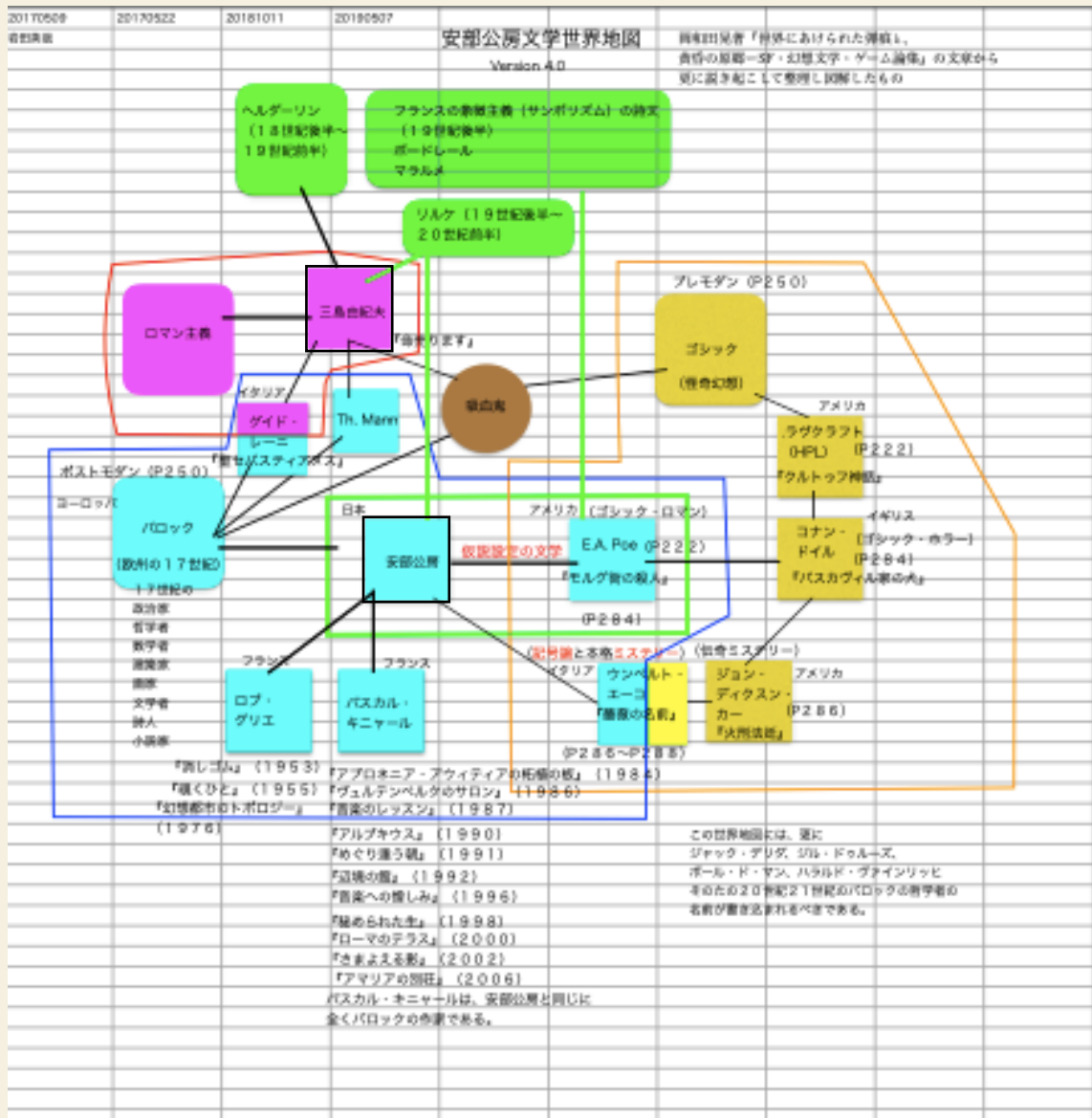
ジャック・デリダ/ジル・ドゥルーズ(共にフランス)/ハラルト・ヴァインリッヒ(ドイツ)/ポール・ド・マン(アメリカ)は、1924年生まれの内安部公房と全く人生の長さが重なつてゐる哲学者たちであることは、誠に興味ふかい。歴史も人間の意識の深いところで働いてゐるが、働きかけられる意識もまた、人間の深いところで働いてゐる。これらの世界的思潮と安部公房の作家としての20世紀の人生は同時並行的に、従ひ文明史・哲学史的なレベルで、このやうな哲学思想と同時並行的に理解することができる。これが、文明史・哲学史的なレベルでの、バロック作家としての安部公房の位置といふことになる。

この哲学的な系譜と共にSF小説がポーに淵源して近代のSF文学が始まつたといふことになる。[引用者追記：安部公房がポーの愛読者であることはいふまでもありません。]

ショーペンハウアー(も含め)以降の哲学者は、バロックの哲学者だとして一括りにする事ができる。即ち19世紀と20世紀に生きた「世界は差異である」といふ認識者たちの系譜です。安部公房の「新象徴主義哲学」[註1]も其の哲学のうちの一つです。

三島由紀夫の世界文学地図上に於ける位置については「安部公房世界文学地図」に、これは安部公房

中心の文学世界地図ですので、三島文学の読者にとってはまだまだ不足ではありますが、安部公房文学と世界SF文学の視点から十分に三島文学の位置が概観できるものとしてご覧戴きたい：<https://docdro.id/1S9jKdj>



「僕の帰結は、不思議な事に、現代の実存哲学とは一寸異つた実存哲学だつた。僕の哲学(?)を無理に名づければ新象徴主義哲学(存在象徴主義)とでも言はうか、やはりオントロジーの上に立つ一種の実践主義だつた。存在象徴の創造的解釈、それが僕の意志する所だ。」(全集第1巻、270ページ上段) (『安部公房文学 メタSF論 ～記号と文字のtopology～』 (もぐら通信第62号))

(13) 21世紀の日本の作家にとっては、この二人の超越論の作家は、超越論の作家だといふことだけで、十分過ぎる位に範とすべき作家だといふこと。何故なら、ここ十年の芥川賞受賞作を通覧したところ、受賞者たちの書く小説は、方法論には依然として無意識無自覚であるが、その最初のページを開いて読んで判ること

は、出来不出来は別にして、いづれも超越論の方法の（私が見ると）意識で、作家当人には無意識で、書かれた小説であるからだといふこと。これは磯田光一が『左翼がサヨクになるとき』で論じた島田雅彦の『優しいサヨクのための嬉遊曲』（1983年）の冒頭が既に超越論の意識で、作家当人には多分無意識で、書かれてゐること。そして、この作品が、私の通覧した芥川賞受賞作品の最初に置かれた一連の作品群の「終わりし道の標べに」ある里程碑であり、しかも文壇の消滅した1985年直前に書かれたことの、意義ある作品であるといふこと。即ち、島田雅彦の『優しいサヨクのための嬉遊曲』の示すところは、漢字の左翼は意識的に共産主義を、しかしカタカナのサヨクは無意識に超越論を求めてゐたのだといふこと。また従ひ、此の作家が安部公房の読者であつて、『カオスの娘 シャーマン探偵ナルコ』といふ作品を書いてゐることには、このやうに考へてくれば、作家本人の動機には勿論であるが、また日本文学史上にも、相当の然るべき理由のあることだといふこと。〔引用者追記：この作家が安部公房の愛読者であることが、以上の私の指摘が事実であることを証明してゐる。〕

さてさて、縷々所説を申し述べて参りましたが、このまとめの章を、これまでの両方の読者と、21世紀にこれからやつて来る世界中の日本文学の読者のために、次の一行で締めたいと思ふ。

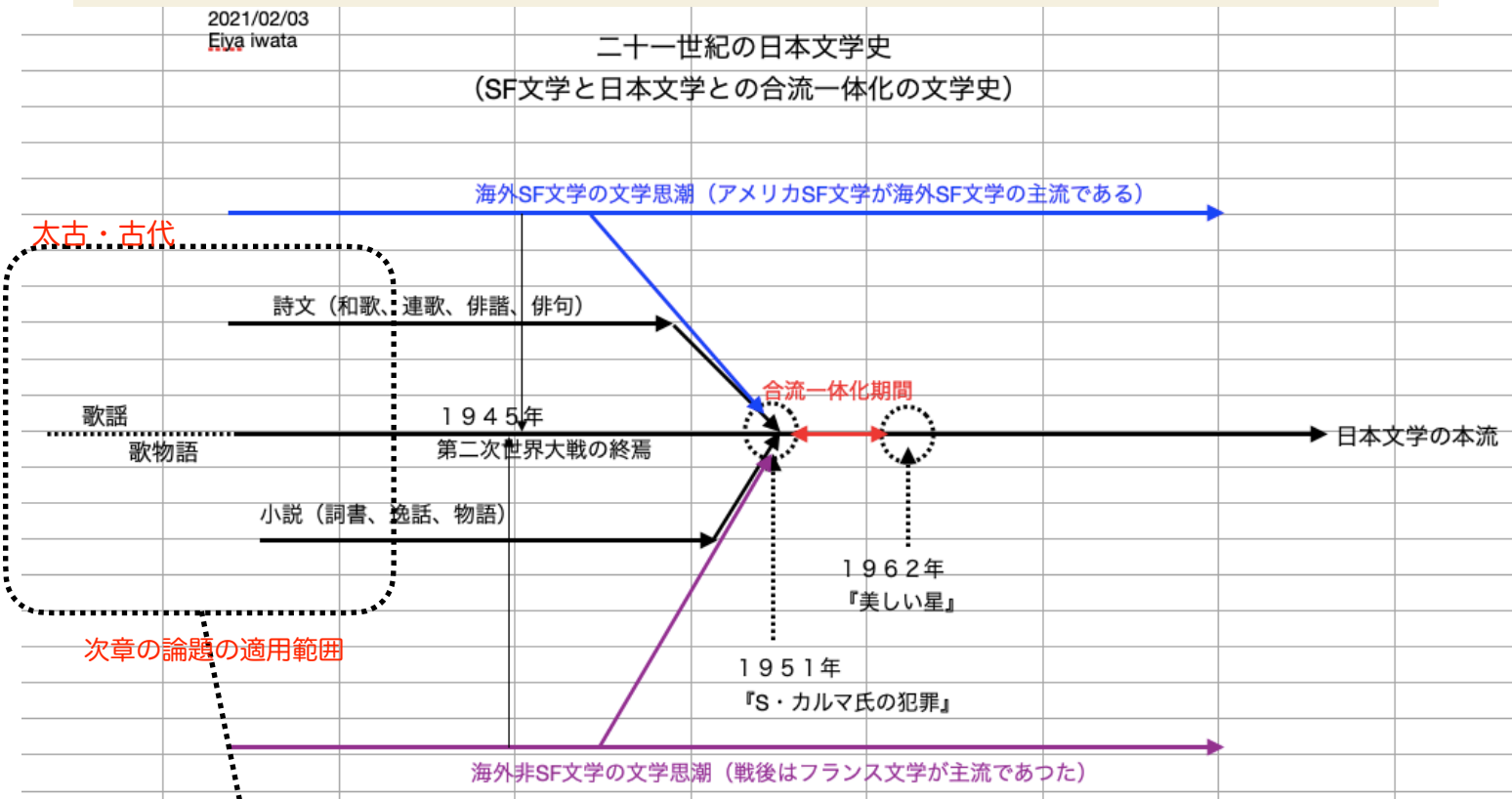
安部公房に徹すれば三島由紀夫に通じ、三島由紀夫に徹すれば安部公房に通ず。」

[附録3]

前の章で論じ、この章の稿を起こした引用するに当たつて述べた私の仮説を検証するために、前回挙げ損じたものも含め（例へば中村光夫）、参照した著作には次のものがある：

- (1) 中村光夫：二葉亭四迷伝（講談社）、近代の文学と文学者（朝日新聞社）、私の文学論（新潮選書）、谷崎潤一郎論（新潮文庫）、明治文学史（筑摩叢書9）、日本の近代小説、日本の現代小説（以上二つは岩波新書）
- (2) 杉山平助：文藝五十年史（鱒書房）
- (3) 正宗白鳥：文壇人物評論（中央公論社）、文壇五十年（中公文庫）
- (4) 高見順：昭和文学盛衰史（角川文庫）
- (5) 巽孝之：日本SF論争史（勁草書房）、「メタファはなぜ殺される 現代批評講義」（松柏社）、「盗まれた廃墟 ポール・ド・マンのアメリカ」（彩流社）、メタフィクションの謀略（ちくまライブラリー）、「パラノイドの帝国 アメリカ文学精神史講義」（大修館書店）、現代SFのレトリック（岩波書店）
- (6) SFマガジン：1996年8月号・482号〔サミュエル・R.ディレイニー特集〕、2019年6月号・733号〔横田順彌追悼特集〕（早川書房）
- (7) 水村美苗：「日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で」（筑摩書房）

以上述べ来たつたところを「二十一世紀の文学史」と題して図解すると次のようになる。



この図解を念頭に置いて、次の章の論題に入ります。

8.2.1.3 そもそも日本文学に云ふ小説とは何かといふ主題について、折口信夫著『古代研究 III—国文学の発生』（中公クラシックス）に依つて、日本語の小説の本質について考察をする

(以下次号へ続く)

私の本棚

(33)

『木山捷平全詩集』を読む

岩田英哉

今月号の巻頭詩に木山捷平と云ふ小説家の詩をあげるために此の詩集を読みまして、実にいい詩が幾つもあるので、ここに読者に読んでもらひたい此の詩人の詩を紹介するために、私の本棚を使ひます。

この方は、岡山の産で、井伏鱒二と同じ国の出身で、実際に井伏鱒二のお弟子さんでした。このやうなふるさととは如何にも、日本の内地の田舎と云ふ自然の中の詩で、これが日本人の共有して思ふふるさとなのではないでせうか。東京に限りませんが、世界中どこの国でも近代国家を建設するにあたって首都を一つ設けて中央集権的に生まれた中心の都市にゐると人間は野生を失ふのです。これが一番の大問題です。即ち、私のいひ方をすれば、しかし此の木山捷平の詩が如実に正反対のことを示してゐるやうに、糞尿と性愛を喪失するのです。そしてお月さまのことも。

男の子と女の子

そら

ええか

一、二、三……

わしと

とみちゃん

石崖の鼻にならんで

ふるへながら小便ひつた。

わしの小便と

とみちゃんの小便

二本ならんで

芋の葉っぱへぱりぱり落ちた

「とみちゃん、わしの方がちつとよけい飛んだぞ！」

「そら、あんたのはちつと突き出とるもん」

山も

野も

あかるいあかるい月夜であつた。

たうもろこしのひげ

秋になると

たうもろこしの実にかはいひげが生えた

あのひげのうひうひしさ。

僕はとみちやんと

もろこし畑の中で

よくそのひげを腰にぶら下げてあそんだ。

歳月はめぐつた。

とみちやんは

はづかしさうに、十八の春

汽車にのつて町へ嫁入りして行つた

.....

そして

とみちやんのゐない村のもろこし畑に

今年も秋風が吹き出した。

赤蜻蛉

山畑のたうきびのかげであつてゐたら

赤蜻蛉とんぼが

おしのでぬぐひに止まりに来た。

おしの

ほんとにお前はわしが好きか。

この村のもので誰一人

ほめてくれるものもないこのわしが――

そして、おしの

わしが・・のためにたたかつて

牢へ行くやうなことがあつても

お前はわしを忘れはせぬか。

ふるさと

五月!

ふるさとへ帰りたいのう。

ふるさとかへつて

わらびがとりに行きたいのう。

わらびをとりに行つて

谷川のほとりで

身内にいつぱい山気を感じながら

ウンコをたれてみたいのう。

ウンコをたれながら

チチツ チチツ となく

山の小鳥がききたいのう。



糞尿と性愛の文学

～生殖器・排泄器同一社会論仮説～

(3)

岩田英哉

1。古事記の中の糞尿と性愛

1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）

サンチョ・パンサを求めて

(11)

横たわる人と立っている人

岩田英哉

沙漠の丘陵のうねりの向かうに日が落ちるところを、残照が我が顔に照って、暖かさを感じ、それをいはば味わっていたときに、ふと、あと何百回、何千回、このように落日を見ることが、これからの自分の残りの人生で、あるのだろうかと考えたときに、死に行くとは、勘定する時間の単位の名前が段々と、大きい時間の単位の名前から小さい時間の単位の名前に変化してゆくことだと思ったが、これは正しいか。あと、何十年生きることが出来るだろうかと残る生年の数を勘定し、あと、何年生きることが出来るだろうかと勘定し、あと何ヶ月生きることが出来るだろうかと勘定し、あとなん日生きることが出来るだろうかと勘定し、あと何時間生きることが出来るだろうかと勘定し、あと何分、あと何秒と時間の単位を数えて、ひとは死に至るのだ。しかし、この場合、一体だれが数を数えているのだろうか。死に行くその人だろうか、それとも、傍にいる恋人、友人、知人、長年の連れ添い、親類縁者、医者、看護婦だろうか。意識の薄れ行くひとは、数を数えることができる限り数を数えたとして、さて、そのひとを囲んでいるこれらのひとたちは、一体どこまでその数を数えることを続け、またどこでその数を数えることを止めることができるのだろうか。何を契機に、横たわるひとは計算することを止め、何を契機に、立っているひとは、計算することを止めるのだろうか。

もし横たわっているひとが、立っているひとが計算を止めた後もずうっと計算をその意識の中で継続しているのにもかかわらず、立っているひとが、見かけで判断をして、ああもはやこのひとは生きてはいないのだと誤った判定をして、その計算を止めてしまったならば、それは一体どういうことを意味するものだろうか。立っているひとは、横になっているひとが、生きてるか死んでいるかは、外見で判断する以外にはしていないということなのだろうか。一体そのひとがまだ生きてるか、既に死んでしまったのかは、どうやって知ることができるのだろうか。横たわっているひとがもの言はぬひととなり、ことばを発しなくなってしばらくして、そうして体に紫斑や死斑がでてから、ああこのひとは、どうやら本当に亡くなったらしいと思って、そこではじめて時間の計算を止めるのだろうか。そのときには、立っているひとは、どこまでの時間の単位の名前を挙げて、勘定をしているのだろうか。そのような標準は、どこにもない。だから、

だれも、そのひとの死に納得しない。そのひとに死斑が出れば、そのひとの死を知るに遅く、そのひとがことばを失えば、そのひとの死を思ふには早すぎる。

死者とは、その先もずうっと小さな時間の単位の名前を計算し続けるひとのことをいうのだろうか。生者とは、ひとが死んだと思うその前まで計算をし、ひとが死んだ後には、そのひとについての計算をしないし、しなくともゆるされるひとのことをいうのだろうか。わたしは、一体わたしの時間を永遠に計算し続けることができるのだろうか。また、わたしの死後永遠にわたしの時間を計算し続けるひとが、わたしの傍にいたのだろうか。死者は一体どれだけの時間が、死後も追憶として、追慕として、生者の時間のなかで計算されるのだろうか。神道では、64年忌が最後であると、わたしの叔父のひとりが言った。

はなしをもとに戻そう、横たわるひとが数えている数と、立っているひとが数えている数とが一致させるということは、如何様にしても算段することができない。つまり、立っているひとは、横たわっているひとの数を知ることができない。知っているという確信がない。それならば、どうやって御臨終ですということばを、医者は口にすることができるのだ。医者でないひとは、一体どうやってその言葉を口にすることができるのだ。そのひとの死を知ることは、結局、できないのではないだろうか。それならば、もっと時間を逆流させて、横たわっているひとが、まだ立っているひとであったときも、そのひとの死も、従って生も、だから、生と死の境も、やはり、実は、曖昧だったのではないだろうか。ほら、こうやってこの一文を書いているわたくしも、読んでいるあなたも。

この文章を書いた動機は、冒頭の通りですが、しかし此の生と死についての考へ方が横たはる姿勢と立つてゐる姿勢に分かれるといふ同じ考へ方で、蓮實重彦著『夏目漱石論』（講談社文芸文庫）が書かれてゐることを紹介してをきたい。これは私が連載してゐる『糞尿と性愛の文学』の夏目漱石の章で論じようとした『明暗』の冒頭の情景についての批評と同じ指摘の批評です。この姿勢の違いを、この批評家は漱石作品群の一般的な問題として論じてゐます。同書「第一章 横たわる漱石」の「仰臥と言葉の発生」の冒頭です（原文は傍線は傍点）：

「生憎主人はこの点に関して頗る猫に近い性分」で、「昼寝は吾輩に劣らぬ位やる」と話者たる猫を慨嘆せしめる苦沙弥の午睡癖いらい、「医者は探りを入れた後で、手術台の上から津田を下した」という冒頭の一行が全篇の風土を決定している絶筆『明暗』の療養生活にいたるまで、漱石の小説のほとんどは、きまって、横臥の姿勢をまもる人物のまわりに物語を構築するという一貫した構造におさまっている。」（同書28ページ）

ネット・メディア論
(14)
7.3 公私の最大単位

岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
- 4. ネット・モノド論
- 5 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
- 7. 政治形態と自由
 - 7.1 政治形態とは何か
 - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
 - 7.3 公私の最大単位
 - 7.4 政治形態E&Aの公私：一神教のtopologyの政治形態
 - 7.5 政治形態Jの公私：高天原のtopology（超越論）の政治形態
- 8. 経済形態と自由
 - 8.1 経済形態とは何か
 - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか：江戸時代幕藩体制下の信用取引に学ぶ
 - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
 - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 9.3 グローカリストとしての千利休と後裔たち（令和時代の人間像）

- 7.1 政治形態とは何か
- 7.3 公私の最大単位



Mole Hole Letter

(52)

さらば、Google!

～断捨離GAFAシリーズ(2)～

岩田英哉

1。さらば、Google

アメリカの今回の大統領選挙に関して、トランプ陣営のシドニー・パウエルといふ弁護士が軍事法廷での裁判所に弁護士として法廷に立つ資格がある（「軍事弁護士」と呼ばれる）といふことに関して、これをほとんどのネット情報は自明のこととして報道していましたが（これは日米を問はず）、ある海外に在住の日本人の若者のチャンネルで其の確証が得られていないといふ発言があり、Googleで(Sydney Powell, military attorney)で検索した結果、確かにこの組み合わせで明確に此の語彙での組み合わせは、最初の検索結果の画面には出て来ずに、関連する周辺的な用語で、それも一般的な文脈の軍事法廷と弁護士資格のある弁護士に関する説明の文章のみが検索されました。

しかし、医者にもセカンド・オピニオンがあるだらうといふことで、二つ目の検索に利用した検索エンジンが、DuckDuckGoといふエンジンです。このエンジンで同じ上の組み合わせで検索したところ、正確な検索結果が出てきて、確かにSydney Powellはmilitary attorneyであるといふ文が最初の画面に出てきました。即ち、Googleは私たちが普段利用していても、思つてゐる以上に偏向してゐるといふこと、情報操作をしてゐるといふことです。殊に、その時々話題になつてゐる人物、または継続的に自社の敵であると考へた人物には焦点を当てて、この種の悪質な操作をするといふことが明らかになりました。日本でも同様の筈です。

DuckDuckGoといふ検索エンジンのURLです：

<https://duckduckgo.com>

このエンジンの特徴は、GAFAのネット支配の思想とは正反対に、一切の個人情報の収集をしないといふことを謳ひ文句にしてゐるところに顕著な特徴があります。

このついでに、いづれまた後述しますが、ここで、同じ経営方針で運営されてゐる個人利用のメール・システムで、protonmailといふ受発信を暗号化するといふ安全保障（セキュリティ）を施したメール・サービスを紹介してをきます。URLはここです：<https://protonmail.com>

これは無料と有料がありますが、無料であれば1アカウントを、有料であれば一つのアカウントのもとで別の複数のメール・アドレスを取得することができます。問題なのは、これは個人情報を収集しないことを経営方針としたサービスですから、ある時アメリカのネット・メディアの報道をみてみたら、極左暴力・共産主義者（訓練を受けたマルクス主義者であることを公にしてゐる）のパソコンの画面が映り、何と彼らはこのprotonmailを使つてゐるのです。かうなると、どのやうに此の公私の別と管理の問題を考へねばならないかといふと、次のやうになります。

A. 公：

- (1) 個人情報の収集を方針とするサービス（政府の機関）
- (2) 個人情報の収集をしない方針とするサービス（私企業）

B. 私：

- (1) 個人情報の収集を方針とするサービス（私企業）
- (2) 個人情報の収集をしない方針とするサービス（政府の機関）

管理責任：

- (1) 無責任：A（2）とB（2）
- (2) 有責任：A（1）とB（1）

AとBの間に様々な、例によつて例の如く、階調（スペクトラム）があり、要は均衡（バランス）よく国家と社会を経営するといふ問題がとても大事だといふ事になります。このバランスをとつて国家を経営し、行政を運営して実際に方針を実行せしむるのが、政府の責任である。これに対して、底辺から政府を見上げると、この私といふものを一私企業（private company）と考へた場合に、私の連想するのは、ヤフオクといふオークションの場所の管理責任の問題であり（例：詐欺的な商材を販売しても私企業に管理責任はないとすること）、またネット・メディア上のSNS、例へばFaceBook（本当はFakePook・フェイクプークと呼びたい）やTwitter社の経営者が、アメリカの大統領選挙に於いて暴力的に倫理と法を犯して罰せられぬまま数ヶ月を経てゐるといふ、私企業による利益を中心にして私企業の利害に資すれば此れを上げて正とし害すれば此れを下げて恣意的に悪とするといふ私的検閲の問題になります。上記Bの（1）の場合がこれです。

しかし、私企業が巨大化すると限りなく、A（1）になつてしまひ、遂に政府の機関の権力を凌駕して、現職のトランプ大統領の発言までアカウントの暴力的な削除によつて封殺したといふのが、今回の大統領選挙の不正選挙の巨きな事の顛末の一部でありました。管理責任が有責任であるB（1）が管理責任を放棄し

て、全く恣意的な暴力をふるつたといふことになり、これがアメリカの現行憲法では、言論の自由を大切にされたためにメディアに対しての検閲を積極的に禁ずる条文のないことが憲法上の問題として露呈したわけです。

さて、日本の現行憲法や如何に。ととへば、憲法第21条に検閲の禁止が積極的に簡潔に謳はれてみますので、マス・メディアおよびネット・メディアでの検閲が激しい現況下であれば、国民は上記の均衡（バランス）の取れた国家経営を強く望んでゐるわけですから、民主主義の政治制度のもとでの解決策は次の二つです：

(1) 積極策：各メディアに訴訟を起こす。

(2) 消極策：

①各メディアの金流を断つか、または金流の導管をできるだけ細く絞り込んで、私企業を倒産に追い込む。これは反社会的な行為を大手を振って行ふ悪の企業である限り、その限りに於いて当然の国民による正しい対処法です。

②選挙に国民の代理人といふべき議員を当選させると同時に、国民の利益に反する考へ方と行動をとる議員を、国会・地方自治体の選挙に於いて、落選させる。

本題に戻ります。

それでは、どうやってGoogleのサービスを断捨離するかといふ考へ方と方法について述べます。

2. 断捨離Googleの考へ方

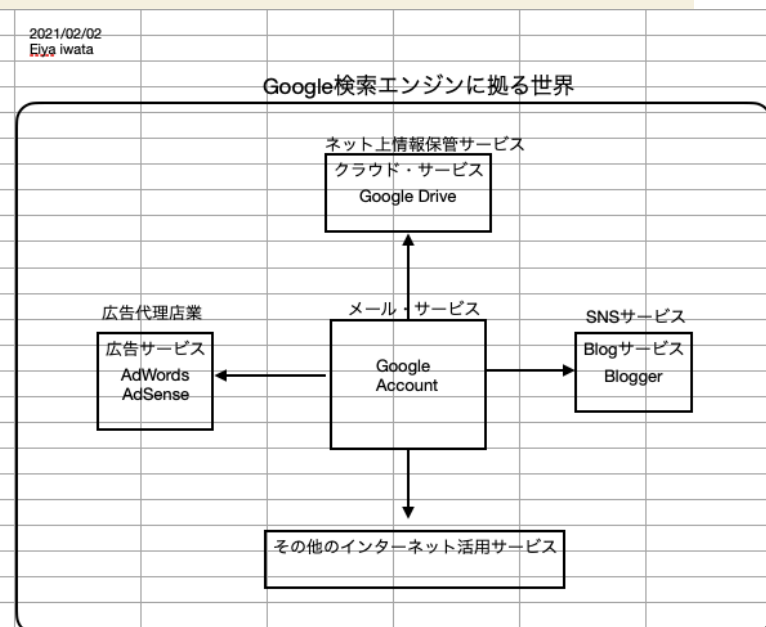
(1) Googleとは何か

GoogleのサービスはGmailのアカウントの開設を主軸にして、次のような複合的なサービスを展開してゐるので、これが仲々便利であるためにGoogleのメール・アカウントの契約を解約できない大きな理由となつてゐる。

しかし、その前に、

問：一体Googleとは何でせうか。この間に答へてみませう。

答：GoogleとはGoogleといふ検索エンジンの上になりたつ一大ネット・サービス産業である。以下にGoogleサービス全体図を示します。



今から二十年以上前の話です。当時はインターネットの勃興期で、検索エンジンの主流はYahoo!の検索エンジンでした。そこにGoogleといふ検索エンジンが現れたので、これを使ってみると、検索結果の精度の高さと検索スピーとの高速である事に非常に驚き、一体誰が此の検索エンジンを作ったのかを調べて、次のアメリカのスタンフォード大学のウェブページを見つけ（これをGoogleで見つけた）、そこに掲示されてあるセルゲイ・ブリンとラリー・ページといふ二人の大学院生の書いた論文「The Anatomy of a Large-Scale Hypertextual Web Search Engine」（HTMLによつて書かれてある大規模ウェブに関する検索エンジン解体新書）を読みました。URLのリンクは今も生きてみます：

<http://infolab.stanford.edu/~backrub/google.html>

この論文の肝であるGoogleの方程式は次の通りです。赤字にした方程式が、それです。ここでは、その前後の和訳は省きます。式だけを見て下さい。当時の創業理念は素晴らしいもので、世界中の図書や資料を無料で誰にでも閲覧ができる世界の創造といふものでしたし、私も共感しました。しかし、今は世界中の資料の閲覧能力を獲得すると同時に、正反対の世界中の資料の検閲をする巨大勢力になつてしまつた。巨きいものは悪であるといふ初期シュールレアリズムの日本の詩人の詩の一行は正しかつたと思ふのです。

「2.1.1 Description of PageRank Calculation

Academic citation literature has been applied to the web, largely by counting citations or backlinks to a given page. This gives some approximation of a page's importance or quality. PageRank extends this idea by not counting links from all pages equally, and by normalizing by the number of links on a page. PageRank is defined as follows:

We assume page A has pages T1...Tn which point to it (i.e., are citations).

The parameter d is a damping factor which can be set between 0 and 1. We usually set d to 0.85. There are more details about d in the next section.

Also C(A) is defined as the number of links going out of page A. The PageRank of a page A is given as follows:

$$PR(A) = (1-d) + d (PR(T1)/C(T1) + \dots + PR(Tn)/C(Tn))$$

Note that the PageRanks form a probability distribution over web pages, so the sum of all web pages' PageRanks will be one.

PageRank or PR(A) can be calculated using a simple iterative algorithm, and

corresponds to the principal eigenvector of the normalized link matrix of the web. Also, a PageRank for 26 million web pages can be computed in a few hours on a medium size workstation. There are many other details which are beyond the scope of this paper.」

これがGoogleに巨大な富をもたらした方程式です。当時二人の若者はシリコンヴァレーのヴェンチャー・キャピタルに説明をして廻つて、当時の日本円で20億円の資金を集めました。日本でこの方程式をみ、この論文を読んで理解をしてインターネットのビジネス一般的に投資をする投資家は一社もみなかつたでせうし、今もこんな検索エンジンは日本製では、存在しない。この間、私はネットの世界を注視しながら、エンジニアたちの製作する検索エンジンも調査しましたが、出ては来たものの、資本の基盤のないことと技術がGoogleに劣るからでせう、結局消えて行きました。

上記の方程式を見て一目、私の知つことは、勿論論文は幾度も読んで日本語に翻訳して当時出してみた私のニュースレター（今にいふメルマガ）で何度かに分けて掲載をし解説とともに配信しましたが、要するに、これは巨大なデータ・センターの施設と其の施設のための空間が必要とされるだらうといふ事です。ですから、20億円の資金がなければ、利益の出るまでの間は膨大な施設の維持費用を維持するために、やつていけないだらうといふ事でした。

この二人の若い創業者は、いつ検索エンジンがネット上で広告代理業といふ業種に相当するサービスの基盤になると気付いたのかは解りません。検索エンジンとしてのGoogleの登場からAdWord、次にAdSenseといふ広告代理サービスを開始するのに少しの遅れがあつたからです。これは世界中のデータを蓄積する時間であつたといふことなのでせう。

上図のGoogleの部分サービスの中から、SNSのブログのサービスを独立させて事業にしたのが、FaceBookとTwitterその他のSNSサービスの提供者たちです。これに媒体の視点を加味すると、文字・静止画像・動画といふ要素が入り、ご存知の通りの事業がYouTubeを初めてとしてネット上に賑はつてゐます。そして、これらを更にネット上で接続をしてネット通信の世界が日常的にあつて、私たちの生活の一部となつてゐます。そして、この独占的な事業形態を悪用して情報に関する悪意ある、即ち不公正な操作をしてゐるのが、GAFAと呼ばれるこれら大手IT技術活用企業（悪用企業といふべきです）の実態といふわけです。

さて、具体的に、この悪を如何に成敗するか鬼滅するか断捨離するかといふ鬼退治の桃太郎の秘策は次のやうになります。同じ試みは既にアメリカが先行して行

はれてみますので、私も参考にしました。

3. 断捨離Googleの方法

結論：

上図にある此の複合的にGmailアカウントから伸びてゐる個別サービスの線を断ち切ることを解決策とします。即ち、総合サービスを止めて、個別に専門・専科のサービスを自分の好みに従つて選択して、自分のサービスの集合の世界を個別に個人的に創造するといふことです。この場合大事なことは、Googleの部分サービスに代替するサービスをネット上から見つけて使つてみるといふことです。これをALTERNATIVE（二者択一・次善の策）作戦と名付け、略号をパソコンのキーボードと同じ記号でALT作戦と名付けることにします。以下、ALT作戦の説明です。

（1）メール・サービス：前述のProtonmailに切り替へる。暗号化して発信受信をします。無料サービスで十分の働きをします。

（2）SNSサービス：

①YouTubeの代替：Rumble（アメリカ製）、Bitchute（アメリカ製）

②Twitterの代替：Parler（アメリカ製）の復活を待つ。telegram（ロシア製）それからSignal（アメリカ製）Reddit（アメリカ製）しかし、これらは日本語の世界ではないといふ恨みあり。一次情報の収集に役立ちます。日本語のプラットフォームが欲しい。

③Instagram：Rumble（アメリカ製）

（3）クラウド・サービス：日本製をたとへ有料でも使ふべし。しかしいいものがない。代替はEvernoteとDropBox。これらはアメリカ製。

（4）ネット広告代理店サービス：上記のアメリカ製代替サービスでもお金が稼げる仕組みのものがあります。しかし、皆英語の話です。AdWordsやAdSenseの更に別の代替サービスといへば、アフィリエイトで（しかしまたFacebookとGoogleの検索エンジンを利用するといふ話になるといふ循環蟻地獄である）。

（5）その他のサービス：これは順次個別に海外に探す以外にはない。アメリカのサービスがやはりインターネットの開発国ですので、その応用のノウハウも含めて、群を抜いてゐる。日本人が日本で流布させてゐるネット・マーケティングの手法は皆老いも若きも教へる者はみな其の猿真似です。

とはいへ、しかしながら、我らは戦はねばならぬ。悔しいが、これもまた英語のウェブサイトであるが力を借りることにしよう：

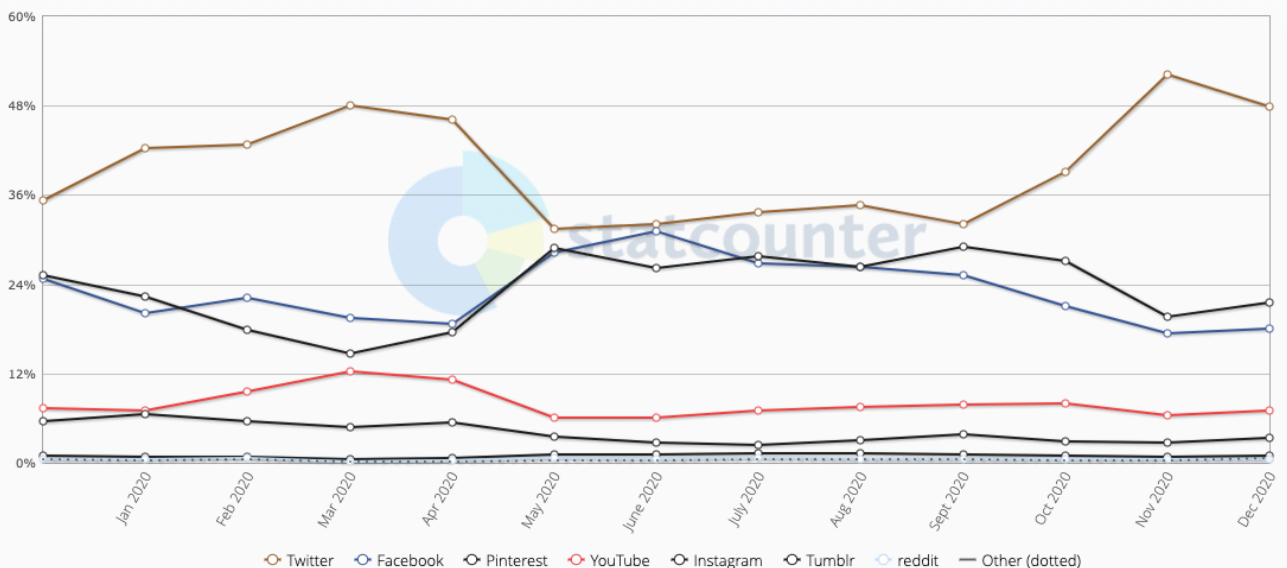
<https://gs.statcounter.com/>

これは、Stat Couterといふサイトです。GoogleやFBやTwitterなどの大手テック企業の市場占有率その他有益な情報を抽出することができて便利です。今日本の国に於けるFB, Twitterその他のSNSの市場占有率を見ると次のやうになつてゐる。FaceBookは人気がない。人気のあるのはTwitterです。やはり俳句の国だからであらうか。

Social Media Stats Japan

Dec 2019 - Dec 2020

Edit Chart Data



日本人が日本語で日本製のプラットフォーム（flexibility and scalabilityを最初から基本設計された）を構築することが急務です。これは、日本の政治家は意識水準も低いので、従ひ官僚も同類と考へた方がよく、否、欲どころか同類そのものに低水準にあるので、民間組織で安全保障意識の高い人たちが関係する全ての分野から集まって、構築する以外にはないと私は思ふ。ここまで、国家がひどい状態になってしまった以上は。

かくの如く余りに怒り心頭に発すること最近度々なれば、GAFAsの一角amazonにて我が貧しき財布より大枚千円札一枚をはたいて購入せるプラスチック製のピコピコ・ハンマーなれども、ある日ダイソーに行つたら同じものが100円で売つてみたので、なほ怒りに感じて我が心のうちを顧みて、サイレント・マジョリティーの詠める：

悪態の つきたくなる日は 悲しくも 鬼滅のハンマー 振り下ろす我

この国家立法府及び行政府の安全保障意識と実際的水準の低劣なることは、次の

記事を読まれない。我が国の酷い安全保障上の問題を正しく語つてみます。経済界の銭ゲバについてはいふまでもありません。こんな国家と政府に個人情報の一円管理はとて任せられない。お断り申し上げる。ITビジネス・アナリスト深田萌絵氏の寄稿文です：https://biz-journal.jp/2021/01/post_203294.html

さて、次に問ふべきは次の問です。

4. Googleを超える検索エンジンを如何に構築するか

次の二つの段階に分けます。ロケットの打ち上げのエンジンの分離方式と同じで、第一段階は当座の、地球の重力圏を抜け出すための暫定解決策。第二段階は本式の推進力を発揮して、地球の外の宇宙へと飛び出した後の巡行速度で目的の星まで航行するためのエンジン。

(1) 第一段階：既存のネット上のサービスを組み合わせて一つの検索エンジンの機能を創造する。

(2) 第二段階：全く新しいGoogleを超える検索エンジンを創造する。

4.1 第一段階：既存のネット上のサービスを組み合わせて一つの検索エンジンの機能を創造する。

Googleが当時世に知られ始めた頃に、私の見つけた検索エンジンサービスに次のものがあります：

<https://web.archive.org/>

これはWayBack Machineといふ名前のアーカイブ・サービス（世界中のウェブサイトをそのまま保管するサービス）です。

当時私が手作りでソフトウェアで製作したウェブサイトを試しに検索してみたら、そのまま出てきましたので、今も保管されてみる事ができる筈です。

Googleで検索しても見つからないサイトがあれば此のサービスを使へば出てきます。当時は無料でしたが、今は寄付を募りつつ有料になつてゐるやうです。これはまだGoogleの目につくほどの大きさの知名度にはなつてゐないとおもはれる。もしGoogleが競合他社と考へたら、またぞろ買収をするか、敵対的行為に及んで、このサービスを潰しにかかるでせう。.orgといふドメインですから、おそらくNPOか何かの類の利益目的ではない団体の経営に違ひありません。このやうに日本語の世界で名前を出すことそのことが、この団体へのリスクになるかも知れない。といふ、世のため人のための心と行ひが悪利用されるといふ今は恐ろしい時代です。これが中国共産党の人民解放軍の唱導する超限戦です。牧歌的な隣の

トトロはもうゐない。ゐるのは隣のドロドロとどろどろの泥沼の鰐ばかりといふことなので

上記のウェブサイトに行くと検索窓のためのソースコードがありますので、これを使えばあなたの製作したウェブサイトにもGoogleと同じ検索窓を設けることができ、これからWayBack Machineに飛んでから有料のサービスを使ふことになれば、この団体の活動に資することになります。

このサービスをめぐって色々な複合的なサービスが考へられますが、これはここまでとします。

4.2 第二段階：全く新しいGoogleを超える検索エンジンを創造する。

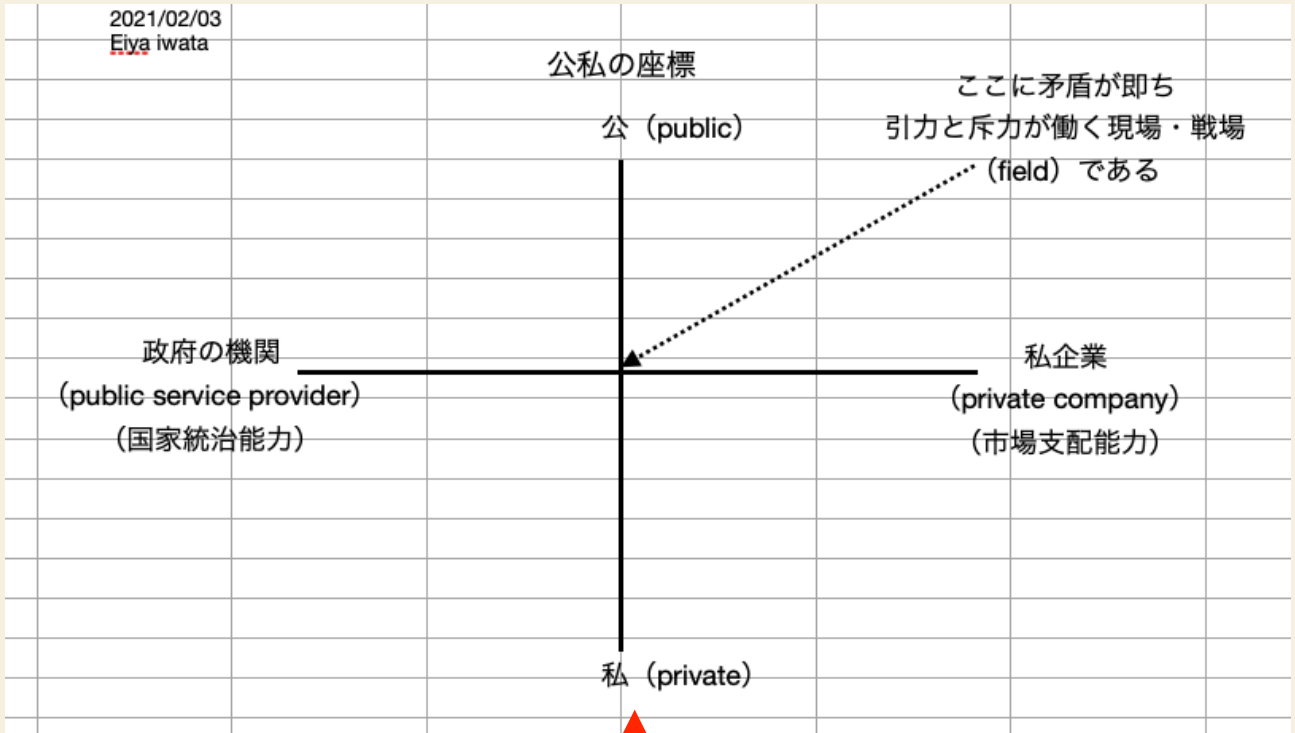
これは、やはり一種の企業秘密と致します。まあ、Googleを超えるとする、次のような点でGoogleを上廻る検索エンジンとなるでせう：

- (1) 検索スピード
- (2) 検索精度
- (3) 検索結果の深層度

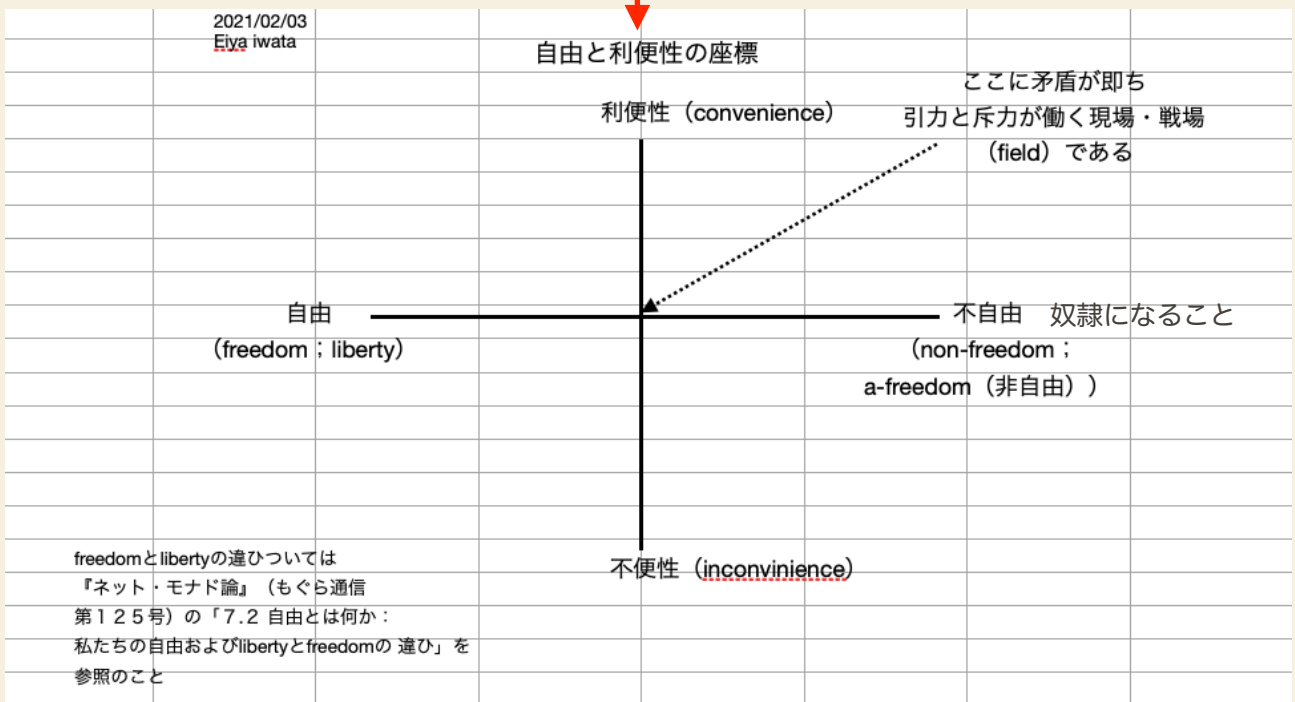
(3) についていへば、当初のGoogleでは今の表示結果よりも遥かにたくさんのウェブサイトが幾重にも幾層にも検索されて表示されてみました。当時のアメリカのキーワード検索サービス提供専門会社（例：Wordtracker: <https://www.wordtracker.com/>）の言では、350番目から400番目に検索されるウェブサイトにも利益を生み出す隠れたお宝情報があるのだといふことで、私もあるキーワードで検索してみると確かにさうであつたことを記憶してゐます。今はGoogleはここまでの深層の情報を、社内ではできる筈ですが、外には出してゐない。かういふところにも、Googleがスパイ・監視機関に墮落してしまつたことと関係する利益の出し方といふ、私たちとは異質の会社の行動と、従ひ経営者の異質の人生観があります。

最後に、公私の問題と利便性のあり方と、言論を含めた一般的な自由の問題を、以上の考察を基に座標にして描きましたので、これらの問題を伝えるメディアの雑音に惑はされないために、この座標を頭に入れて自分の頭でものを考へて下さい。そのための一助となれば幸いなるかな。ものを考へるとは何かについては別途稿を改めてお話したい。

2021/02/03
Eiya iwata



この二つの座標の間に、言論空間内外に於ける言論の自由およびメディア（私企業）と政府の機関（公的機関）による言論統制と云ふ言論の自由に関する問題が在ることが明らかに判ります。近代国家の問題はメディアといふ私企業と、国民の利益を代表してゐるべき国家が「つるんでゐる」ことである。これが2020年のアメリカ大統領選挙で私たちの目に明らかになった事実です。日本の場合も同様です。アガサ・クリスティの推理小説に人前で公然と仲違ひしてゐる男女が殺人犯人だつたといふ小説がある。同じトリックで坂口安吾は『不連続殺人事件』を書いてゐる。ともに傑作です。安部公房の立てた問「**腹をすかしても自由がいいか、満腹した奴隷がいいか**」といふ問いに答へることです（『箱男』刊行後の講演での問い掛け）。



freedomとlibertyの違いについては『ネット・モナド論』（もぐら通信第125号）の「7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い」を参照のこと

結局この現代の問題はヨーロッパ地域の古代から問題、即ち、何故貴族と富豪（商人）は奴隷を買ふことができることを国家が許してゐるのか？といふ問いに答へることになる。結局ヨーロッパの人間たちは、近代国家を建設しても、資本主義と民主主義を担つた中産階級は、この自由人と奴隷の問題を解決できなかつたといふことである。

問1：何故貴族と富豪（商人）は奴隷を買ふことができることを国家が許してゐるのか？

答1：戦争をして勝つた方は負けた相手を奴隷にすることができるといふ規則の元で、この地域の人間たちは古代以来（多分その前からも）国家経営をし戦争をして来たので、この問1に対する答は、これであることは間違ひがない。17世紀のスペインのバロック小説『ドン・キホーテ』の作者セルバンテスもレパントの海戦でスペインが敗れたので奴隷になつてゐる。私はローマ帝国の貴族か大富豪の書いた「奴隷の扱ひ方」と類した題名の和訳本を二冊持つてゐるが、来客の接待に落ち度のあつた奴隷（若い男）に罰として死刑を宣告するといふ逸話が書いてある。この奴隷は恐れおののき、その記述は誠にあはれである。結局主人は此の奴隷を殺さないでゆるしたが、もし死刑にすることを実際に成したとすれば、このローマ帝国といふ帝国には法律があつて、その形式的な手続きもローマ法の体系の中に叙述されてゐる筈である。この場合、公の場で死刑にするのか、私の場で死刑にするものか、人の処刑であればやはり公開の場となるのではないかとおもはれる。さうでなければ、それは私刑（リンチ）である。とすると、やはり問題は、法律に定めのある形式的手順にしたがふ死刑は公正であり、その定めに従はぬ死刑は刑罰ではなくリンチ（私刑）であるといふ区別になる。

今回の2020年のアメリカの大統領選挙で罷り通つた選挙詐欺と呼ぶべき選挙の不正は、これを否定する人間たちを皆、マス・メディアは徒党を組んでトランプといふ現職の大統領の権力（自分たちの私企業の市場での力を保障し保証してくれてゐる国家の代表者）をリンチ（私刑）に掛けたといふことが、これで解ります。日本でも同類同然のことが起きてゐることは異常です。この問題を如何に解決するか。更に、生活の見聞をあたりにする折々に、問と答は続きます。

更に、結局、私たち個人の思考の範囲は国家の役人たちの思考の範囲よりも遙かに広大だといふことであり、政治家はそのやうな私たち個人の集合である国民（the people）の代表として国会議員として国会の議事の場に登壇するといふことである以上、政治家も個人として国民個人同様に行政官僚よりも広い範囲で思考する能力を政治家資格の要件の一つとして要求されることとなります。更に、以下に図示します。

2021/02/03
Eiya iwata

個人と国家の思考範囲

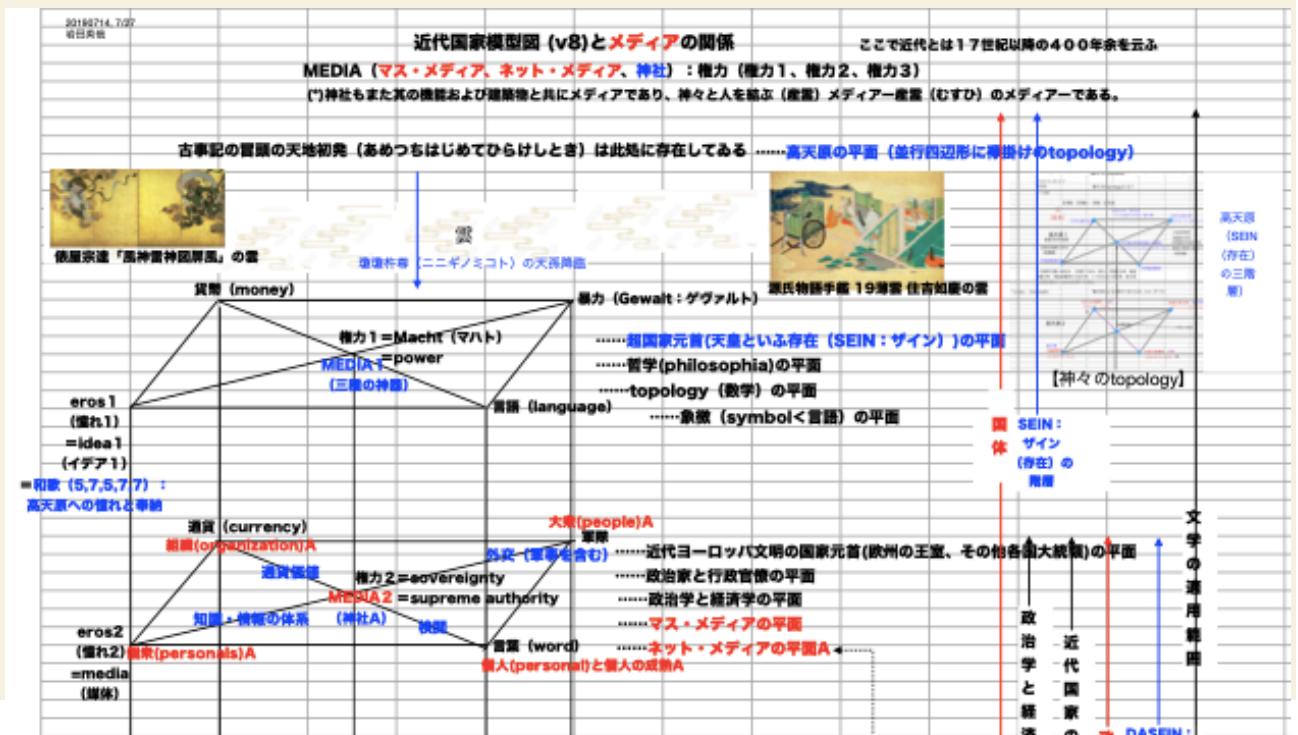


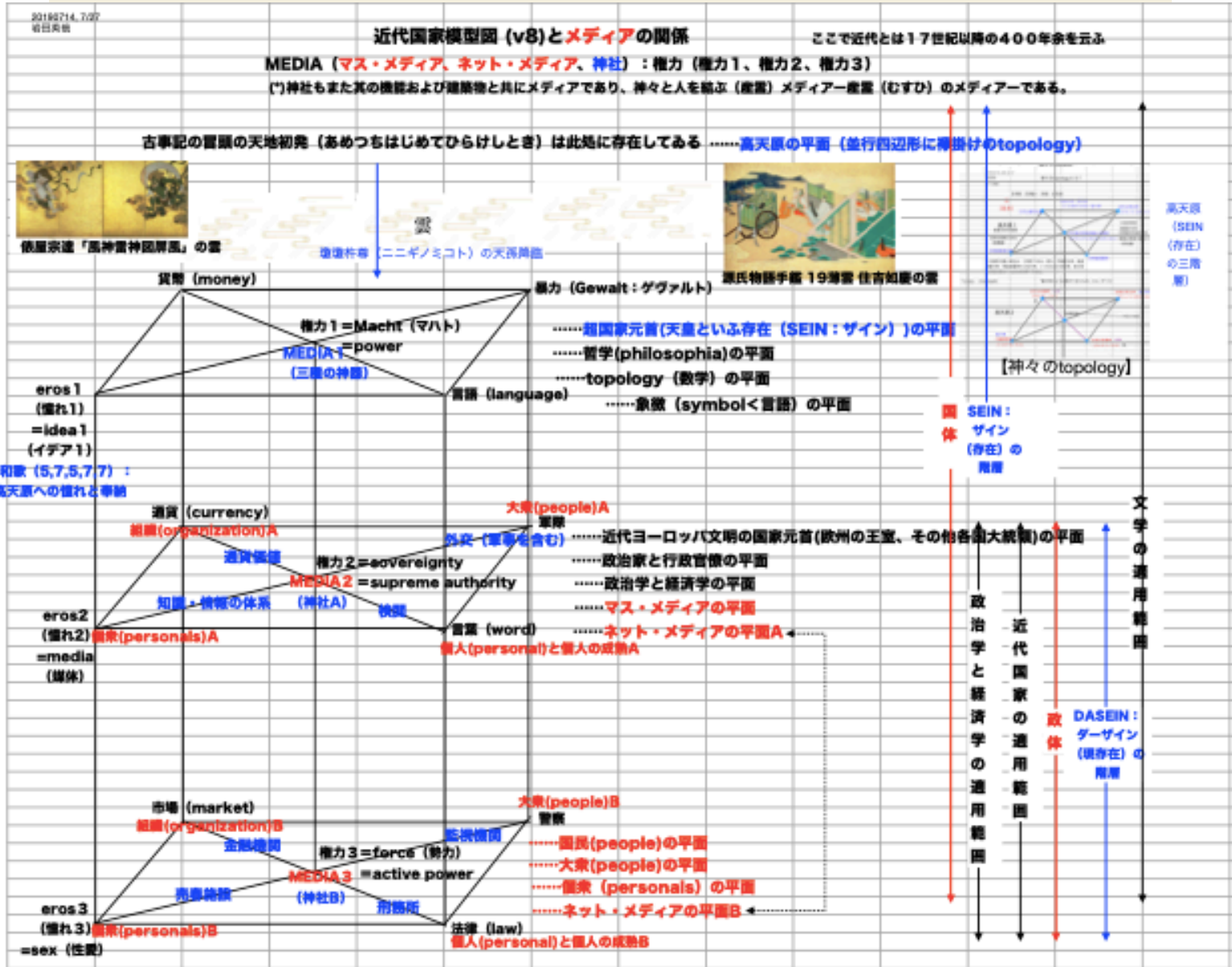
1. 憲法は国体を表現したものであり
2. 法律は政体を表現したものである
と云ふことがこの図でよくわかる。

1. 国体を守るものは軍隊であり
2. 政体を守るものは警察であると云ふこともこの図でよくわかる。

別途空間軸で表現した「近代国家模型図」を参照すること
これで国体と政体の関係、憲法と法律の関係、個人と国家の関係
宗教の適用範囲があなたの思考のために明らかになります。

「近代国家模型図」のうち「近代国家模型図 (v8)とメディアの関係」図を以下に再掲します：<https://www.docdroid.net/IyWxSi5/v8-page-5-pdf>





英語の分類はWebster Onlineによる: <https://www.merriam-webster.com>
 ドイツ語の分類は『新編政治経済辞典』(増次郎)による。
 日本語の分類は筆者(清田)の分類である。

(以下次号に続く)

縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く

(12)

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかゐらないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する 4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

青字は既論の章、赤字は今回
論ずる章、黒字はこれから論
じる章

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

5.9 日本位相習合史

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.11 かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか

5.12 縄文土偶とは一体何か

5.13 習合といふ漢意をやまとところで何といふのか

5.13.1 位相史のための紀元のカテゴリ

5.13.2 淤能碁呂島とは何か

5.15 縄文土器とは何か (1) 縄文基本用語のカテゴリ (2) 縄文土器の構造的スケッチ (素描)

5.16 大祓へを読み解く

5.16.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.16.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

- 5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある
 - (1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議
 - (2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓
 - (3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなったか (1) (2)
- 5.16.4 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか
- 5.17 紫式部の超越論『源氏物語』
- 5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか
- 5.19 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史
- 5.20 日本人はどこから来たか

II Topologyで縄文土器を読み解く

- 0. 縄文土器の概念と分類
- 1. 紋様とは何か。目とは何か
- 2. 縄文土器の構成要素
- 3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる
- 4. 縄文土器は三階層で出来てゐる
- 5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある
- 6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる
- 7. メディア（媒体）としての縄文土器
- 8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる
- 9. メディア（媒体）としての弥生式土器
- 10. 縄文土器と弥生式土器の関係（topologicalな連続性）：3（奇数）から2（偶数）へ
- 11. 銅鐸は7階層で出来てゐる
- 12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治：土器と政治の一体と分離：銅鐸とは何か1
- 13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済：土器と経済の一体と分離：銅鐸とは何か2

IV 21世紀の現代に縄文土器はどのやうに生きてゐるか VII 20世紀の幕を閉ぢ、21世紀に生きるための結語

- 5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある
 - (3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなったか (2)

待て次号 思ひも掛けぬ 形象の 八の音義の 潮満ちるまで

Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界シリーズ」

(12)

扇

岩田英哉

待てしばし 思ひも掛けぬ 形象の 秘密の開かる 静けき時を



編集後記

- 巻頭詩（15）：白壁：木山捷平：懐かしき詩です。今都会に出てきてゐる若者たちに、この思ひ出のあるものか。
- 周辺飛行（38）：3。『周辺飛行』について（21）：阿波環状線の夢：周辺飛行36：安部公房の世界の特徴の実に明瞭なるエッセイで、いかにも安部公房らしい。リルケが常に伏在してゐる。
- 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（9）：7 SF文学史を伝統的な日本文学史に上位接続（conjunction）する：よく書くことができました。これで二十一世紀の文学を生きませう。まづ安部公房を読むことです。
- 私の本棚（33）：『木山捷平全詩集』を読む：私はこの作家が好きになりました。
- 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：構想は出来て、あとは筆下ろすのみなれど、今しばし、ページ数を抑へるがため。
- サンチョ・パンサを求めて（11）：横たわる人と立っている人：これも書いた通り。同じ漱石の小説の特徴を言ひ当ててゐる人がゐるとはおもはなかつた。先に生まれた方が勝ちです。
- ネット・メディア論（14）：7.3 公私の最大単位：また次号。構想はなり、これも書き下ろすのみ。控へることもまた文筆の大事と知ることがあります。
- Mole Hole Letter（53）：さらば、Google!～断捨離GAFAシリーズ（2）：余りに創業の理念を裏切るGoogleは会社分割で国家の、といふことは国民の定める法制度の中に封じ込めるのは、国民と議会と政府である。ここが、しかし、どうも鈍い
我らは何を如何にすべきか。
- 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（12）：5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある/（3）第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか（2）：待て次号。日高み国は逃げません。
- Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境シリーズ（12）：扇：待て次号：扇もたかし富士のやま。

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い圖書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

